

第8回
堺市人権意識調査結果報告書
概要版

2021年（令和3年）3月
堺市

もくじ

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象	1
3. 抽出方法	1
4. 調査方法	1
5. 調査期間	1
6. 回収結果	1
7. 報告書の見方	1
8. 回答者の基本属性	2
II 調査の結果	3
1. 人権に関する考え方について	3
(1) 人権に関する宣言、法律、条約等の認知状況	3
(2) 人権に関する考え方	4
(3) 人権問題への関心	5
2. 自分自身に関することについて	6
(1) 人権を侵害された経験	6
(2) 人権を侵害された内容	6
(3) 人権を侵害された相手	7
(4) 人権を侵害されたときの対応	8
(5) 身近な人について	8
3. 同和問題について	9
(1) 同和問題や被差別部落を知った経緯	9
(2) 就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時の部落差別について	10
(3) 同和問題についての考え方	11
(4) 同和地区の方との結婚について	13
(5) 日頃から親しく述べている人が同和地区出身者であった場合	14
(6) 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて	15
(7) 同和地区を避ける理由	16
(8) 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験	17
(9) 同和地区の人々への差別を見聞きした時の反応	17
(10) 部落差別をなくす方法に関する意見	18
(11) 学校での同和教育について	20
4. 女性の人権について	21
(1) 女性に対する人権問題についての考え方	21
(2) 性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験	21
5. 子どもの人権について	22
(1) 子どもに対する人権問題についての考え方	22
6. 障害者的人権について	23
(1) 障害者に対する人権問題についての考え方	23

7. 高齢者の人権について	24
(1) 高齢者に対する人権問題についての考え方.....	24
(2) 高齢者が安心して暮らせる社会についての考え方.....	24
8. 日本に住む外国籍住民の人権について.....	25
(1) 外国籍住民への差別についての考え方.....	25
(2) 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況.....	26
(3) 差別的言動（ヘイトスピーチ）についての考え方.....	27
9. さまざまな人権について	28
(1) インターネットについての考え方.....	28
(2) インターネット上の誹謗中傷などを助長・誘発する書き込みを目にした経験.....	28
(3) 性的指向や性自認についての考え方.....	29
(4) さまざまな人権問題についての考え方.....	29
(5) 新型コロナウイルスについての考え方.....	30
(6) SDGs（持続可能な開発目標）の認知状況.....	30
(7) SDGs の目標に繋がっていると思う普段の行動	31
10. 人権問題の啓発活動について	32
(1) 人権についての学習の経験	32
(2) 学校で学んだ人権問題の分野	32
(3) 人権に関する講演会や研修会での学習経験.....	33
(4) 人権への理解を深めるために役立った機会や手段.....	33
(5) 堺市の人権に関する事業についての認知状況.....	34
(6) 堺市の人権に関する施設についての認知状況.....	34

I 調査の概要

1. 調査目的 本調査は「人権擁護宣言都市」にふさわしい人権が尊重されるまちづくりを推進するため、市民の人権に関する意識の現状を把握し、今後の人権教育・啓発施策の方向性を明らかにすることを目的に実施した。
2. 調査対象 堺市内在住の16歳以上の男女 3,000人
3. 抽出方法 各区の人口比率に合わせ住民基本台帳から2,500人を無作為抽出(標準サンプル)し、回収率が低いと予測される16~19歳、20歳代はそれぞれ300人、200人を追加抽出(追加サンプル)した。
4. 調査方法 質問紙による郵送調査法
5. 調査期間 令和2年11月16日から12月4日
6. 回収結果 1,334件（うち標準サンプル1,165件、追加サンプル169件） 有効回答率 44.5%
※全体の集計は標準サンプルを対象とし、年齢別集計のみ追加サンプルを含める。

7. 報告書の見方

集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがある。複数回答を依頼した質問では、集計結果の合計は100%を超える。
回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数、または合計件数(複数回答の場合における延べ回答数)として算出した。

本報告書において、第6回堺市人権意識調査(グラフ内:2010(平成22)年度、本文中:前々回調査)及び第7回堺市人権意識調査(グラフ内:2015(平成27)年度、本文中:前回調査)との経年比較を行っている質問がある。

【第6回堺市人権意識調査】

調査対象：堺市内在住の16歳以上の男女
標本数：3,000人(有効回収率49.4%)
抽出方法：各区の人口比率に合わせ住民基本台帳
及び外国人登録原票から無作為抽出
調査方法：質問紙による郵送調査法
調査期間：平成22年6月21日から7月9日

【第7回堺市人権意識調査】

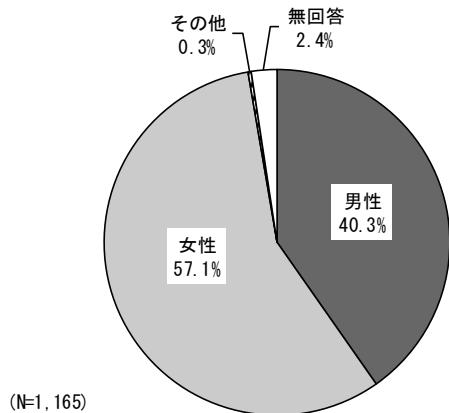
調査対象：堺市内在住の16歳以上の男女
標本数：3,000人(有効回収率43.1%)
抽出方法：各区の人口比率に合わせ住民基本台帳
から無作為抽出
調査方法：質問紙による郵送調査法
調査期間：平成27年11月16日から12月7日

なお、本報告書では、意見や態度の程度、状況などを尋ねた質問の選択肢について、文章上、下記のように表記した。

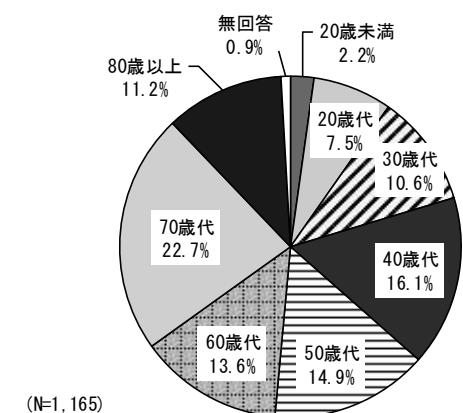
- | | |
|----------|--------------------------------------|
| “そう思う” | ：「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数 |
| “そう思わない” | ：「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた数 |
| “差別がある” | ：「明らかな差別がある」と「どちらかといえば差別がある」を合わせた数 |
| “差別はない” | ：「ほとんど差別はない」と「差別はない」を合わせた数 |
| “身近にいる” | ：「家族や親類にいる」、「親しい友人にいる」、「知人にいる」を合わせた数 |
| “賛成派” | ：「迷いながらも、結局は賛成する」と「賛成する」を合わせた数 |
| “反対派” | ：「反対する」と「迷いながらも、結局は反対する」を合わせた数 |
| “知っている” | ：「よく知っている」と「少しあは知っている」を合わせた数 |
| “知らない” | ：「ほとんど知らない」と「まったく知らない」を合わせた数 |

8. 回答者の基本属性

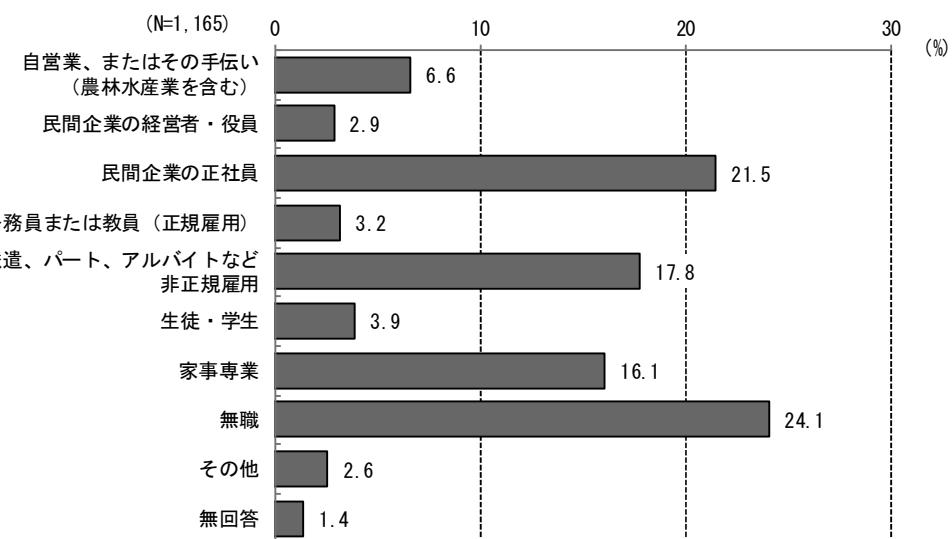
(1) 性別



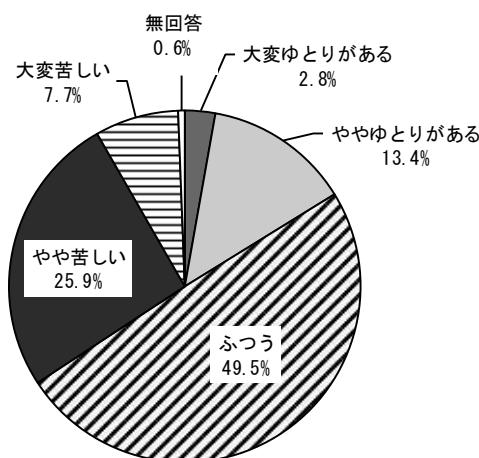
(2) 年齢



(3) 職業



(4) むらし向き

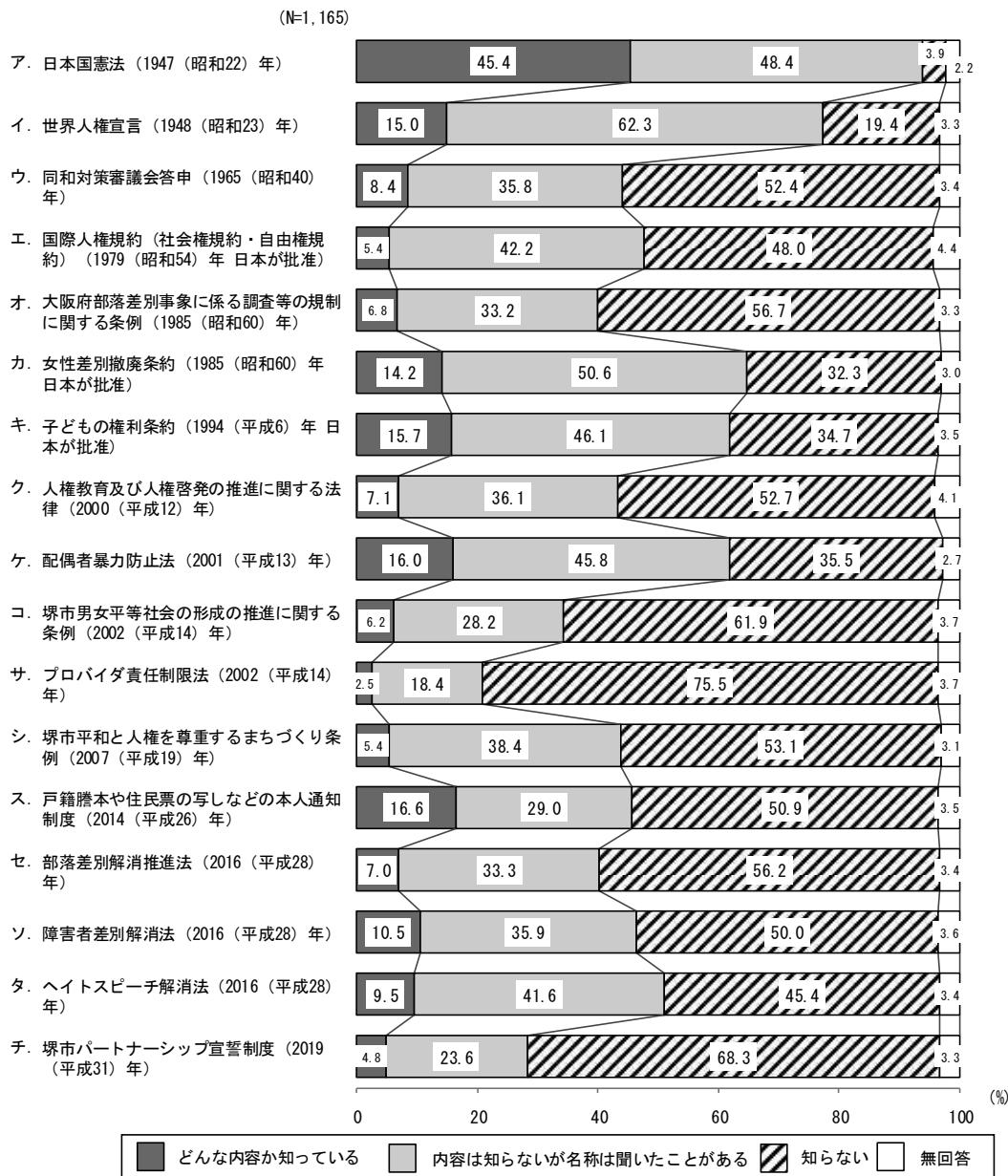


II 調査の結果

1. 人権に関する考え方について

(1) 人権に関する宣言、法律、条約等の認知状況

問5 あなたは、次の人の権に関する宣言や条約、法律等について、どの程度知っていますか。

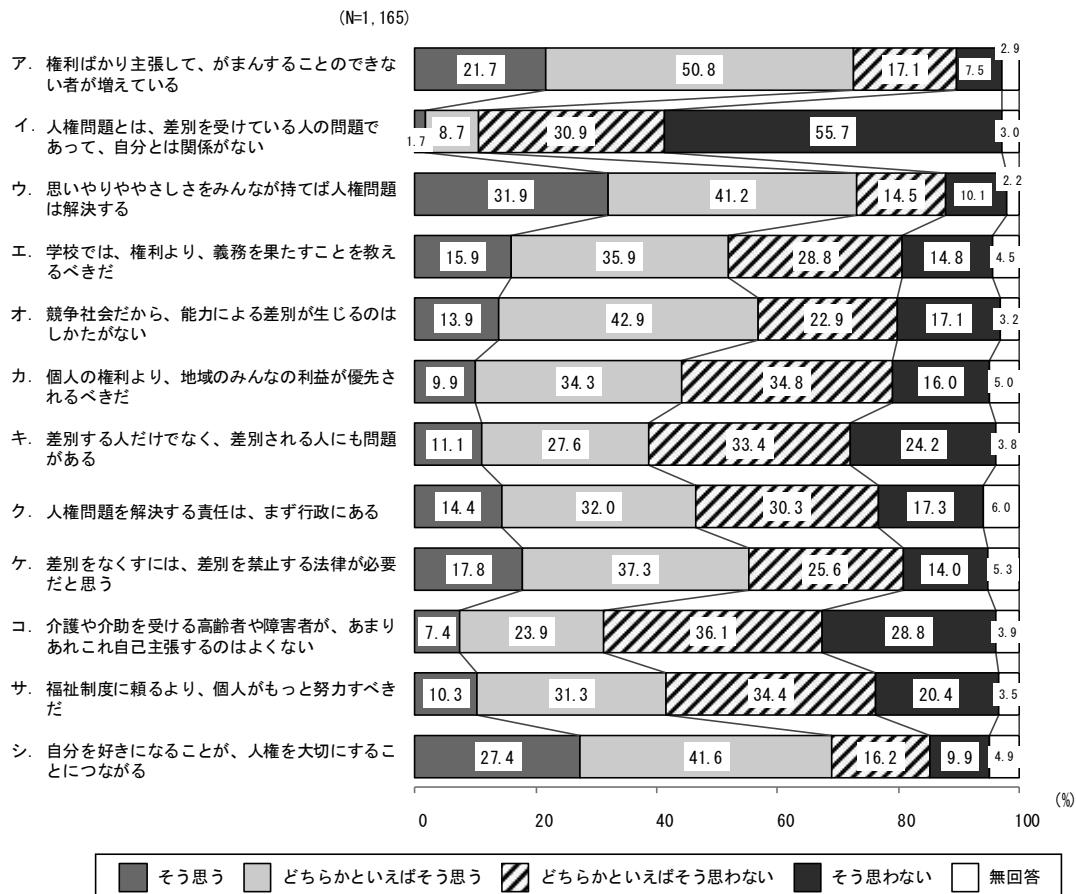


「どんな内容か知っている」が最も高い項目は「ア. 日本国憲法（1947（昭和22）年）」（45.4%）で、唯一4割以上となっている。

「内容は知らないが名称は聞いたことがある」が最も高い項目は「イ. 世界人権宣言（1948（昭和23）年）」（62.3%）、「知らない」が最も高い項目は「サ. プロバイダ責任制限法（2002（平成14）年）」（75.5%）となっている。

(2) 人権に関する考え方

問6 人権について、いろいろな考え方がありますが、あなたはどう思いますか。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。

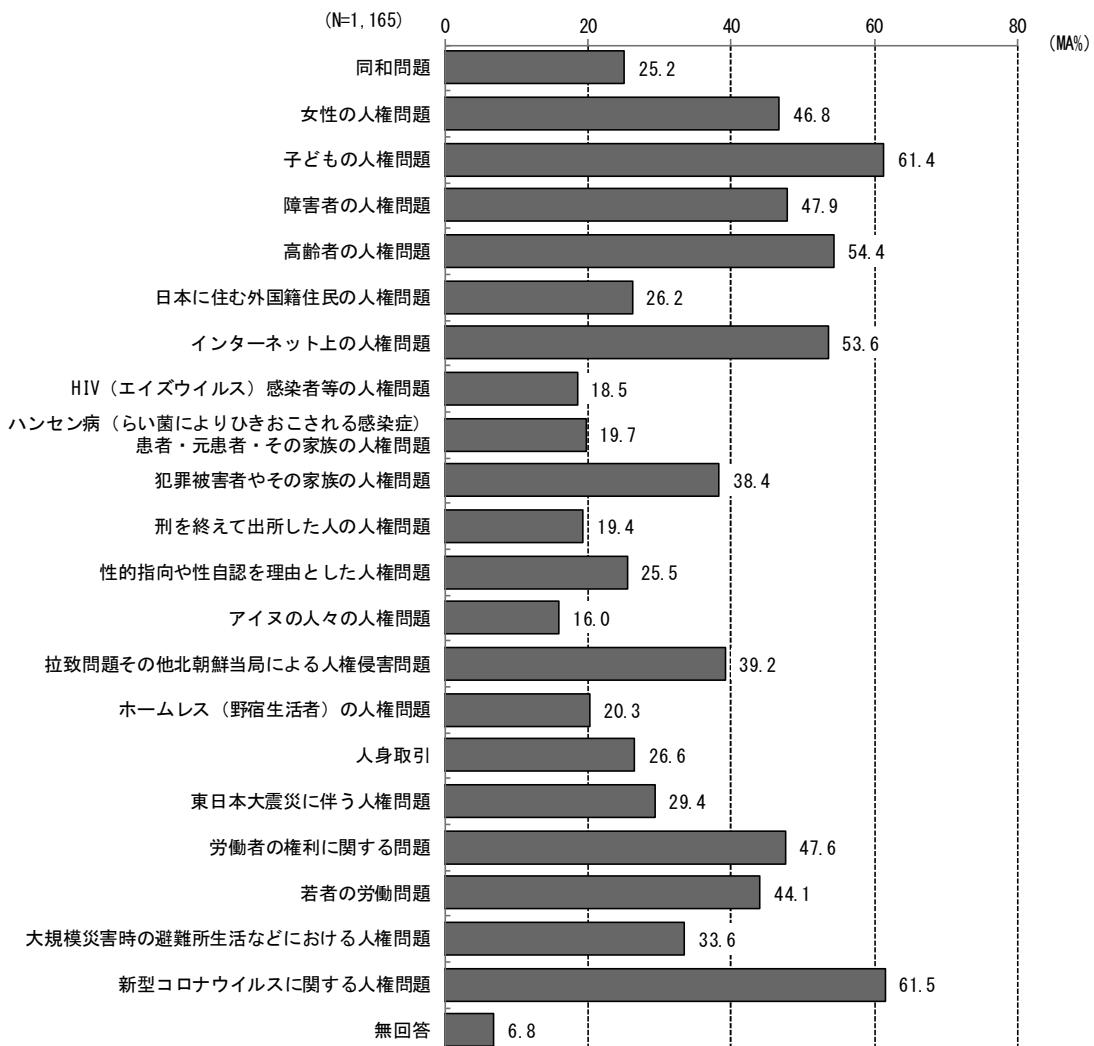


“そう思う”は「ウ. 思いやややしさをみんなが持てば人権問題は解決する」(73.1%) が最も高く、次いで「ア. 権利ばかり主張して、がまんすることのできない者が増えている」(72.5%) となっている。

一方で、“そう思わない”は「イ. 人権問題とは、差別を受けている人の問題であって、自分とは関係がない」(86.6%) が最も高く、次いで「コ. 介護や介助を受ける高齢者や障害者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない」(64.9%) となっている。

(3) 人権問題への関心

問7 あなたが、次の人権問題で関心のあるものに○をつけてください。(複数回答)

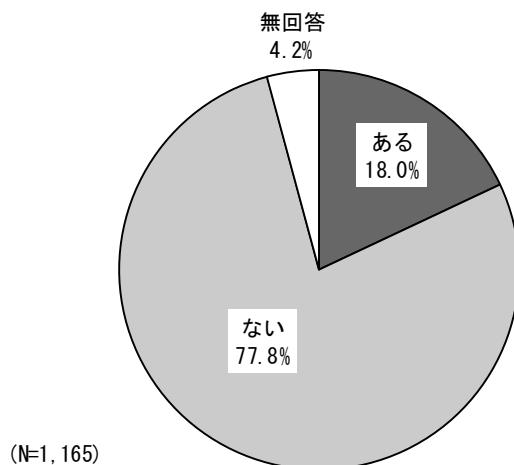


人権問題への関心については、「新型コロナウイルスに関する人権問題」(61.5%) が最も高く、次いで、「子どもの人権問題」(61.4%)、「高齢者の人権問題」(54.4%) となっている。

2. 自分自身に関するこことについて

(1) 人権を侵害された経験

問8 あなたは日常生活の中で、過去5年ほどの間に人権を侵害されたと感じたことはありますか。

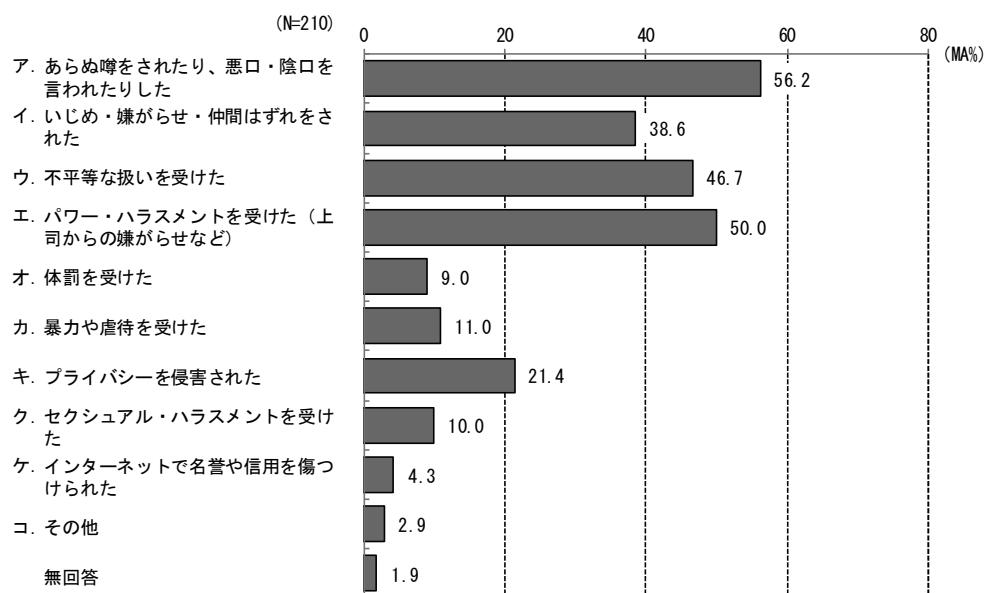


「ない」が77.8%で大幅に高く、「ある」は18.0%となっている。

(2) 人権を侵害された内容

問9 問8で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。

それはどのような内容で、誰（どこ）から人権を侵害されたと感じましたか。（複数回答）

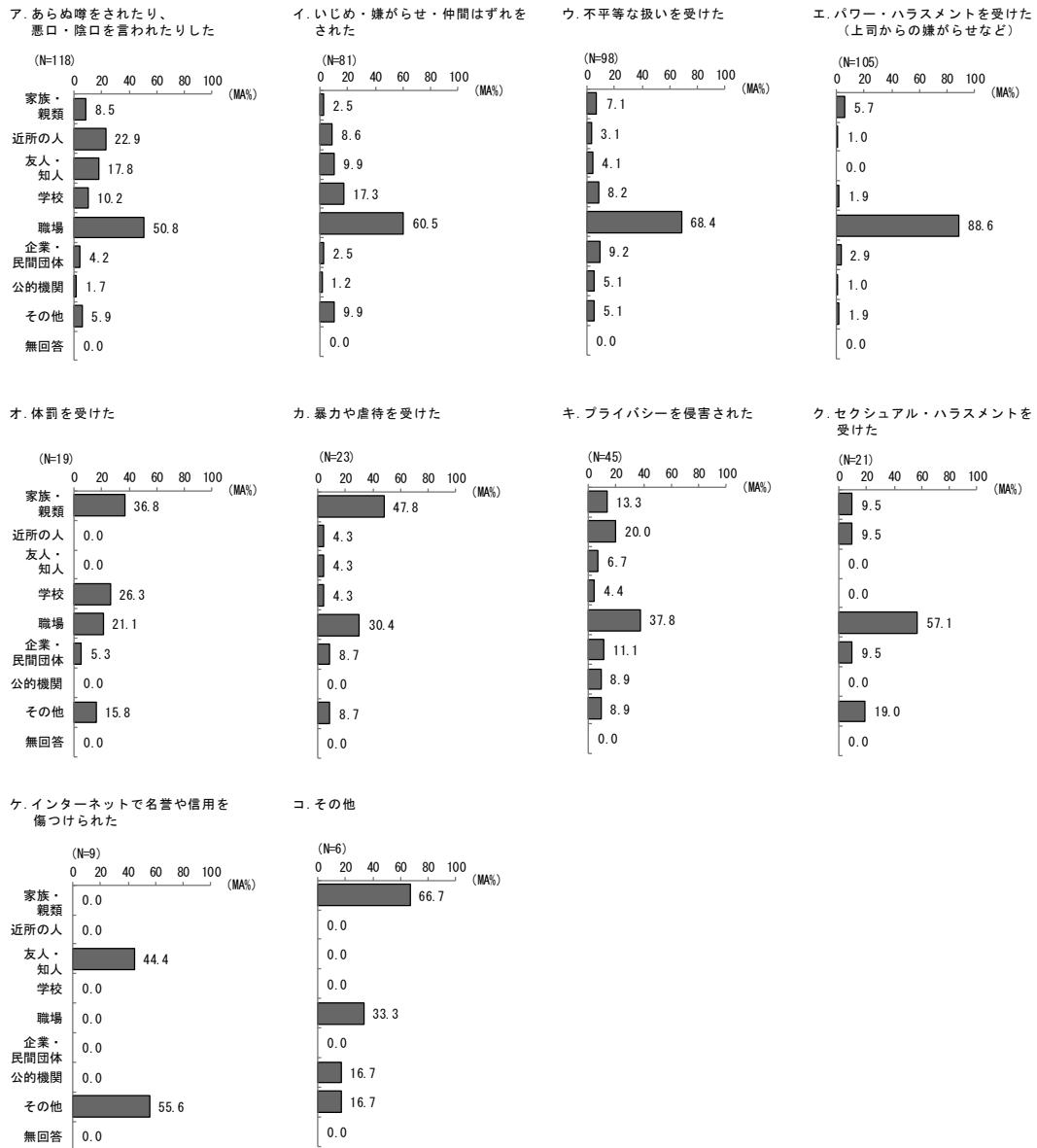


「ア. あらぬ噂をされたり、悪口・陰口を言われたりした」(56.2%) が最も高く、次いで「エ. パワー・ハラスメントを受けた（上司からの嫌がらせなど）」(50.0%) となっている。

(3) 人権を侵害された相手

問9 問8で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。

それはどのような内容で、誰（どこ）から人権を侵害されたと感じましたか。（複数回答）

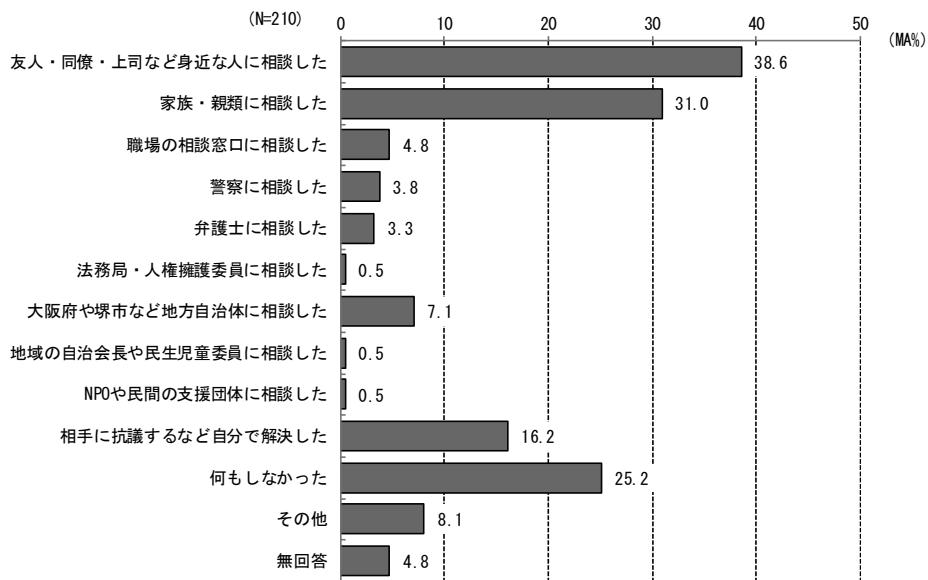


職場の割合は「エ. パワー・ハラスメントを受けた(上司からの嫌がらせなど)」(88.6%) で最も高く、次いで「ウ. 不平等な扱いを受けた」(68.4%) となっている。家族・親類の割合は「カ. 暴力や虐待を受けた」(47.8%) で最も高い。

(4) 人権を侵害されたときの対応

問10 問8で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。

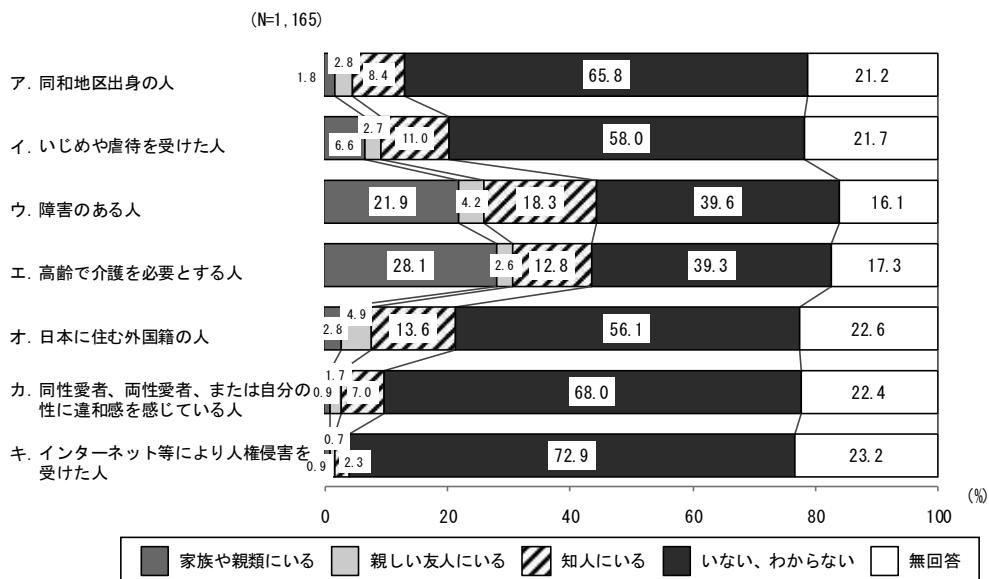
あなたは人権を侵害された時、どうしましたか。(複数回答)



「友人・同僚・上司など身近な人に相談した」が38.6%と最も高く、次いで「家族・親類に相談した」が31.0%、「何もしなかった」が25.2%となっている。

(5) 身近な人について

問11 あなたの身近な人の中に、以下のような方はいますか。

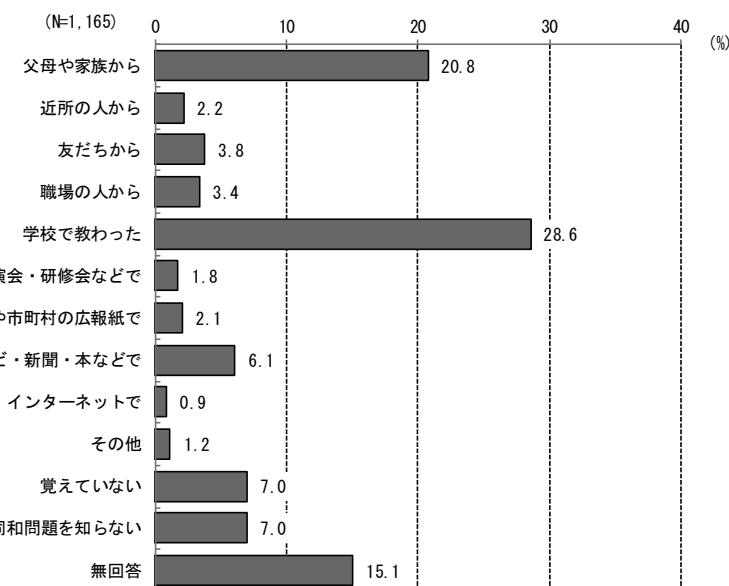


いずれの項目も「いない、わからない」が最も高い。“身近にいる”は、「ウ. 障害のある人」(44.4%)で最も高く、次いで「エ. 高齢で介護を必要とする人」(43.5%)となっている。

3. 同和問題について

(1) 同和問題や被差別部落を知った経緯

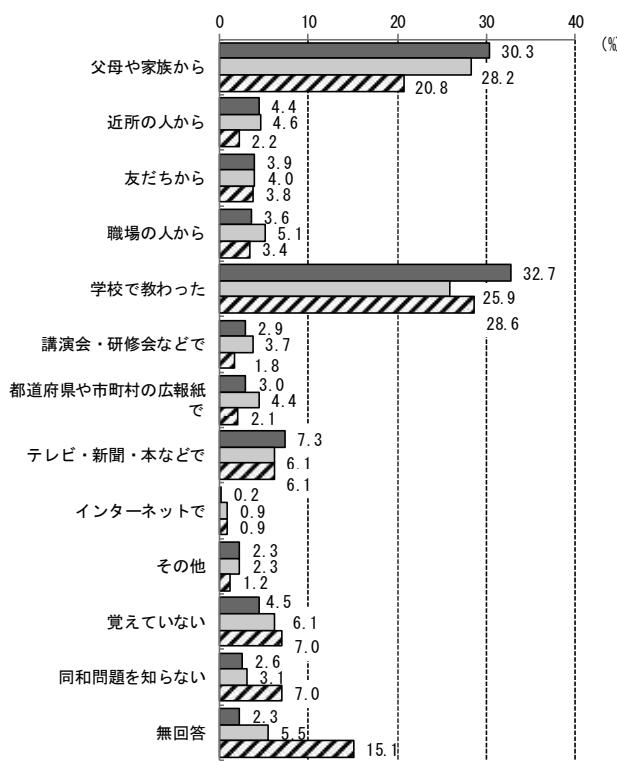
問12 あなたは同和問題や被差別部落（同和地区）があることを、どのようにして知りましたか。



「学校で教わった」が 28.6% と最も高い。次いで「父母や家族から」が 20.8% となっている。それ以外の項目は 1 割に満たない。

経年比較

同和問題や被差別部落を知った経緯



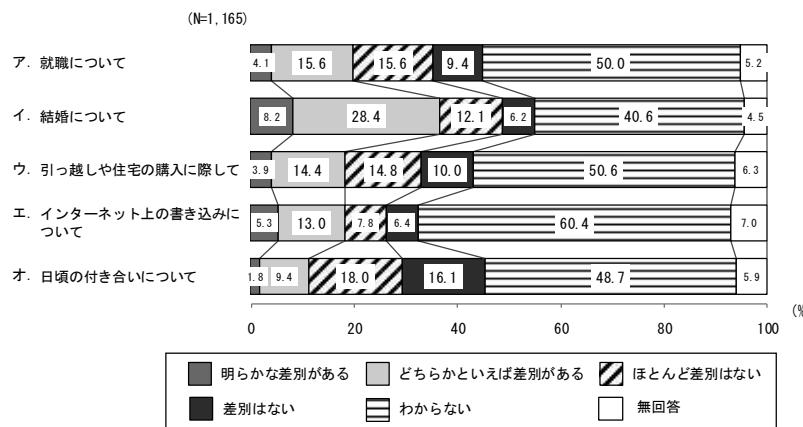
前々回調査及び今回調査は「学校で教わった」が最も高く、前回調査は「父母や家族から」が最も高くなっている。「学校で教わった」は前回調査に比べ 2.7 ポイント増加しているが、前々回調査からは 4.1 ポイント減少している。「父母や家族から」は減少傾向にあり、前回調査からは 7.4 ポイント減少している。一方で、「同和問題を知らない」は増加傾向にあり、前回調査からは 3.9 ポイント増加している。

※前回調査では、複数回答のサンプルは選択肢番号の一一番若い回答のみを採用しており、採用した選択肢以降の割合に影響を及ぼしている可能性が高く、数値を比較する際は留意が必要（今回調査では、複数回答があったサンプルは無回答として集計）。

■ 2010（平成22）年度 (N=1,483) ■ 2015（平成27）年度 (N=1,293) ■ 2020（令和2）年度 (N=1,165)

(2) 就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時の部落差別について

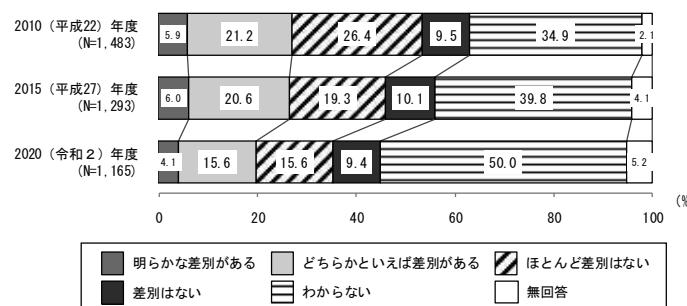
問13 現在、次のことについて部落差別があると思いますか。



“差別がある”は、「イ. 結婚について」(36.6%) が最も高く、次いで「ア. 就職について」(19.7%) となっている。“差別はない”は、「オ. 日頃の付き合いについて」(34.1%) が最も高く、次いで「ア. 就職について」(25.0%) となっている。

経年比較

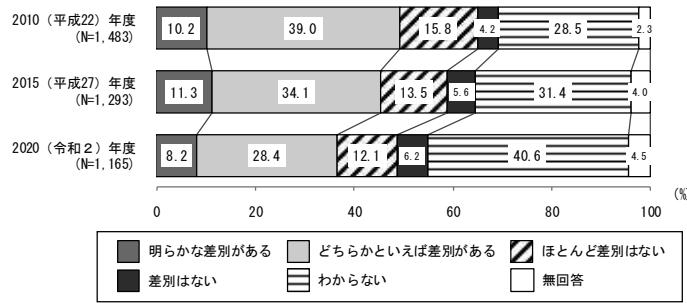
ア. 就職について



「わからない」のみ増加傾向にある。それ以外の項目は前回調査からおしなべて減少しており、“差別がある”は前回調査に比べ 6.9 ポイントの減少、“差別はない”は前回調査に比べ 4.4 ポイントの減少となっている。

経年比較

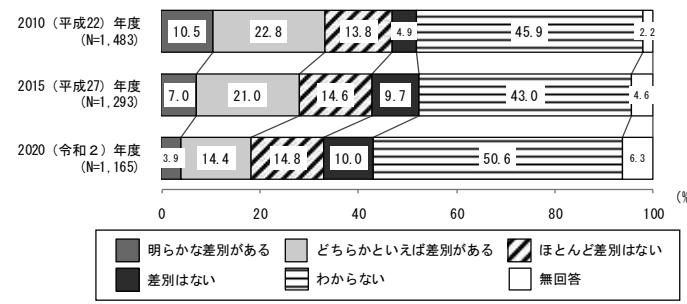
イ. 結婚について



「わからない」が前回、前々回調査に比べ増加している。“差別がある”は前回調査に比べ 8.8 ポイント減少しているが、“差別はない”は 0.8 ポイントの微減にとどまっており、大きな変化はみられない。

経年比較

ウ. 引っ越しや住宅の購入に際して

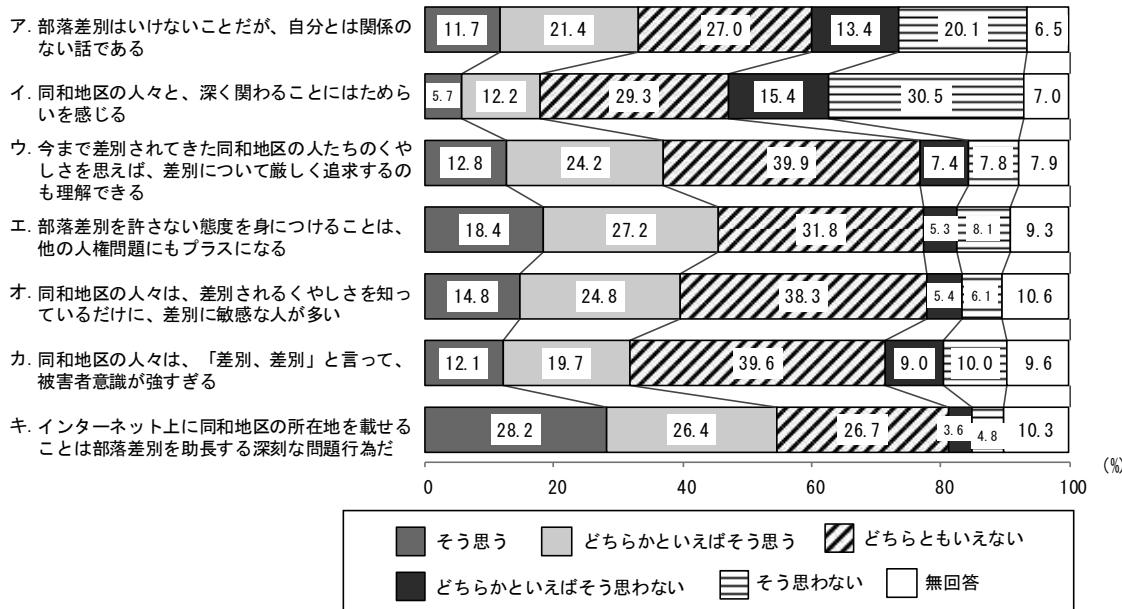


“差別がある”は前々回からは 15.0 ポイント、前回からは 9.7 ポイント減少している。“差別はない”は前回調査から大きな変化がみられず、0.5 ポイントの微増に留まっている。

(3) 同和問題についての考え方

問14 同和問題について、次のような意見がありますが、あなたはどう思いますか。

(N=1,165)

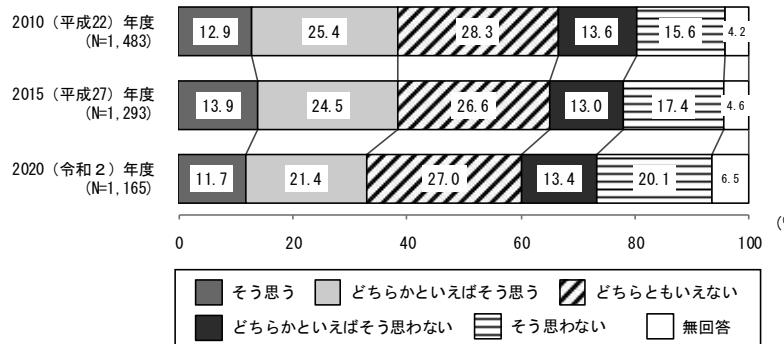


“そう思う”は、「キ. インターネット上に同和地区の所在地を載せることは部落差別を助長する深刻な問題行為だ」(54.6%) が最も高く、次いで「エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」(45.6%) となっている。

“そう思わない”は、「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」(45.9%) が最も高く、次いで「ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」(33.5%) となっている。

経年比較

ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である



“そう思う”は前回調査に比べ5.3ポイントの減少がみられる。“そう思わない”は増加傾向にあり、前回調査との比較では3.1ポイント増加している。

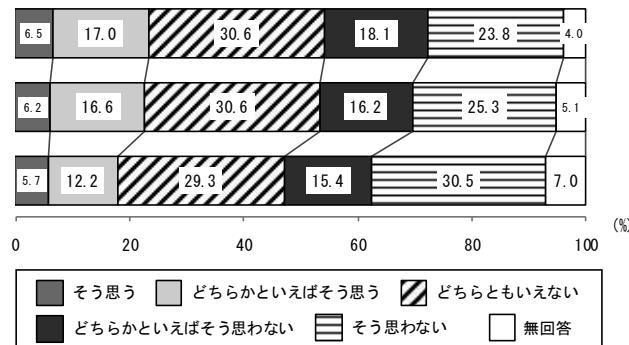
経年比較

2010（平成22）年度
(N=1,483)

2015（平成27）年度
(N=1,293)

2020（令和2）年度
(N=1,165)

イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる



“そう思う”は前回調査に比べ4.9ポイント減少している。一方で、“そう思わない”は前回調査に比べ4.4ポイント増加しており、中でも「そう思わない」は前回調査から5.2ポイントの増加が見られる。

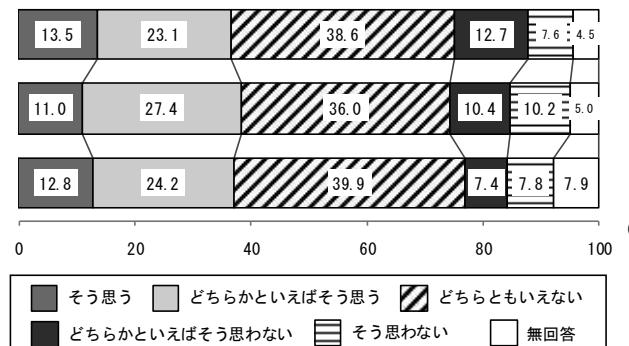
経年比較

ウ. 今まで差別されてきた同和地区の人たちのくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる

2010（平成22）年度
(N=1,483)

2015（平成27）年度
(N=1,293)

2020（令和2）年度
(N=1,165)



“そう思う”は前回調査に比べ1.4ポイント微減しているが、「そう思う」は1.8ポイント微増している。“そう思わない”は、前回調査に比べ5.4ポイント減少している。

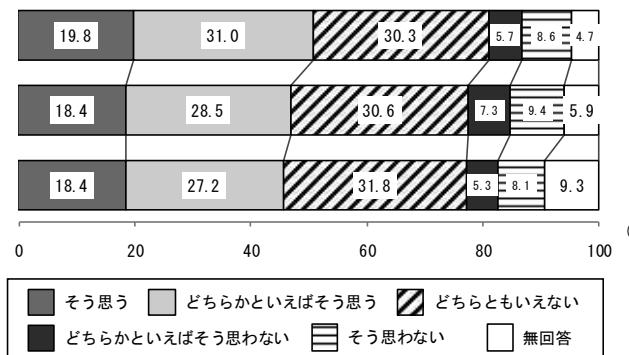
経年比較

エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる

2010（平成22）年度
(N=1,483)

2015（平成27）年度
(N=1,293)

2020（令和2）年度
(N=1,165)



“そう思う”は減少傾向にあり、前回調査との比較では1.3ポイント減少している。“そう思わない”は、前々回調査との比較では大きな変化はないものの、前回調査との比較では、3.3ポイント減少している。

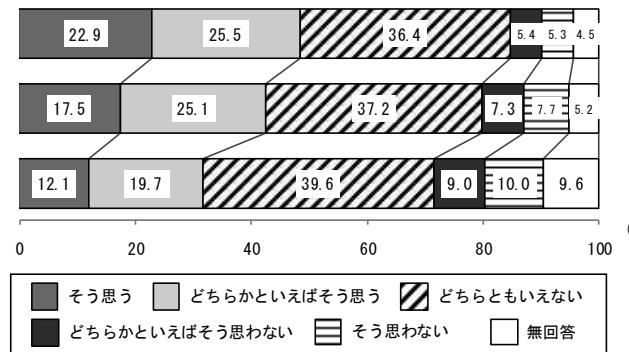
経年比較

オ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる

2010（平成22）年度
(N=1,483)

2015（平成27）年度
(N=1,293)

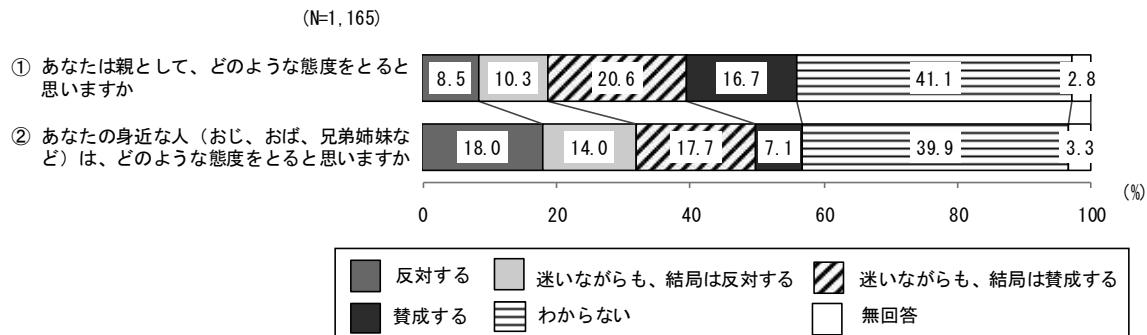
2020（令和2）年度
(N=1,165)



“そう思う”は減少傾向にあり、前回調査に比べ10.8ポイント減少している。一方で、“そう思わない”は増加傾向にあり、前回調査に比べ4.0ポイント増加している。

(4) 同和地区の方との結婚について

- 問15 ①もし、あなたのお子さん（お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください）
が恋愛をし、結婚をしたいと言っている相手が同和地区の人であった場合、あなたは親と
して、どのような態度をとると思いますか。
- ②もし、あなたが結婚しようとしている相手が同和地区の人であった場合、あなたの身近
な人（おじ、おば、兄弟姉妹など）は、どのような態度をとると思いますか。

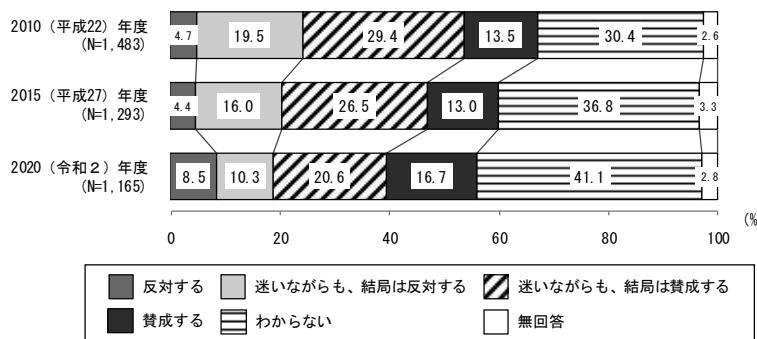


同和地区の方との結婚について、「①自分の子どもが同和地区の方と結婚しようとした場合の反応」は、“賛成派”が“反対派”に比べ18.5ポイント高い。

一方で、「②自分が同和地区の方と結婚する場合の、身近な人（おじ、おば、兄弟姉妹など）の反応」は“反対派”が“賛成派”に比べ7.2ポイント高く、“反対派”が上回っている。

経年比較

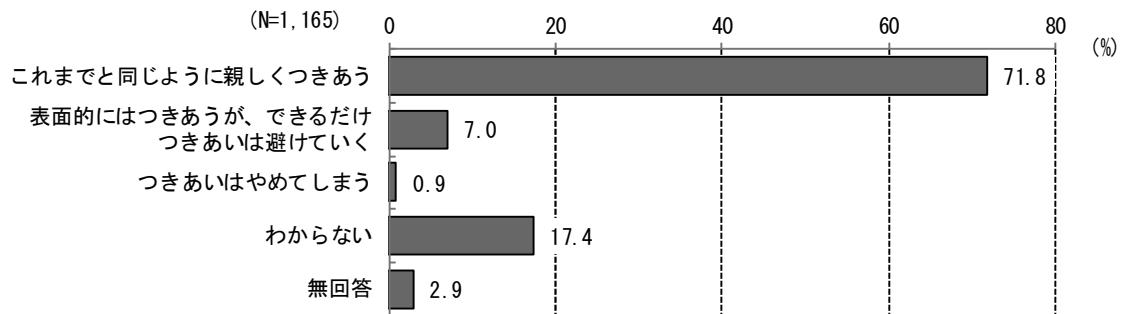
①あなたは親として、どのような態度をとると思いますか



“反対派”、“賛成派”共に減少傾向にあり、「わからない」が調査を重ねるごとに増加している。ただし、前回調査に比べ「反対する」は4.1ポイントの増加、「賛成する」は3.7ポイントの増加となっている。

(5) 日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合

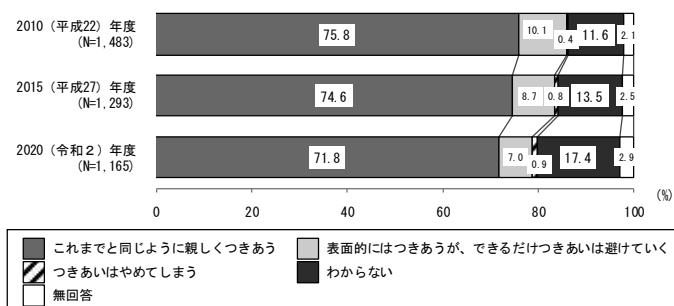
問16 もし、日頃から親しくつきあっている人が、なにかのことで同和地区出身の人であること
がわかった場合、あなたはどうしますか。



「これまでと同じように親しくつきあう」(71.8%) が圧倒的に高く、次いで「わからない」(17.4%) となっている。

経年比較

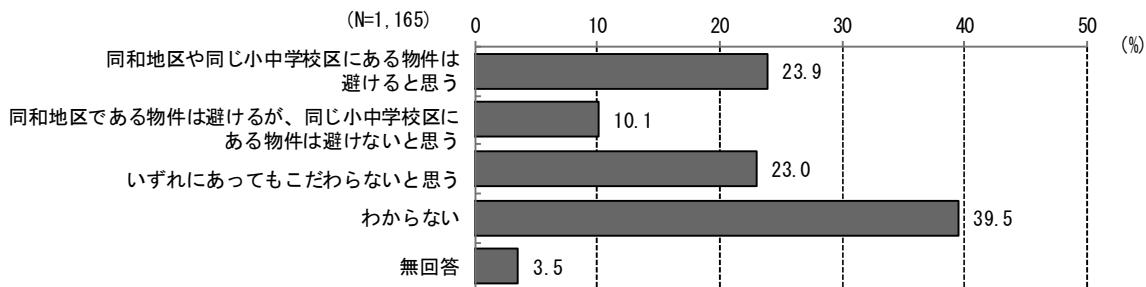
日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合



日頃から親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合の経年比較をみると、「これまでと同じように親しくつきあう」及び「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく」は微減傾向にあり、それぞれ前回調査に比べ 2.8 ポイント、1.7 ポイントの減少がみられる。

(6) 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて

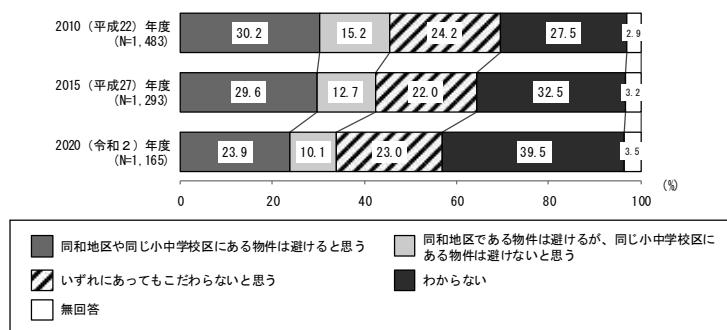
問17 もし、あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区にある物件、もしくは小中学校区に同和地区がある物件ならばどのようにすると思いますか。



「わからない」(39.5%) が最も高くなっています。次いで「同和地区や同じ小中学校にある物件は避けると思う」(23.9%) となっています。

経年比較

同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて

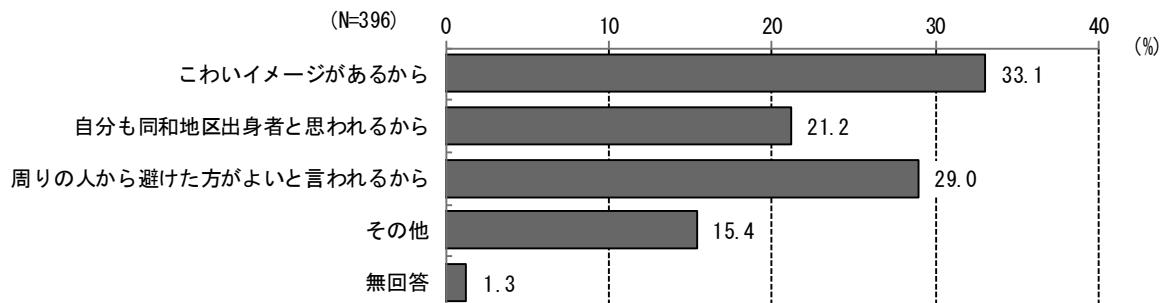


「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」と「同和地区である物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は避けないと思う」は減少傾向にあり、それぞれ前回調査から 5.7 ポイント、2.6 ポイント減少している。一方で、「わからない」は調査を重ねるごとに増加している。

(7) 同和地区を避ける理由

問18 問17で、「1」「2」と答えた方にお聞きします。

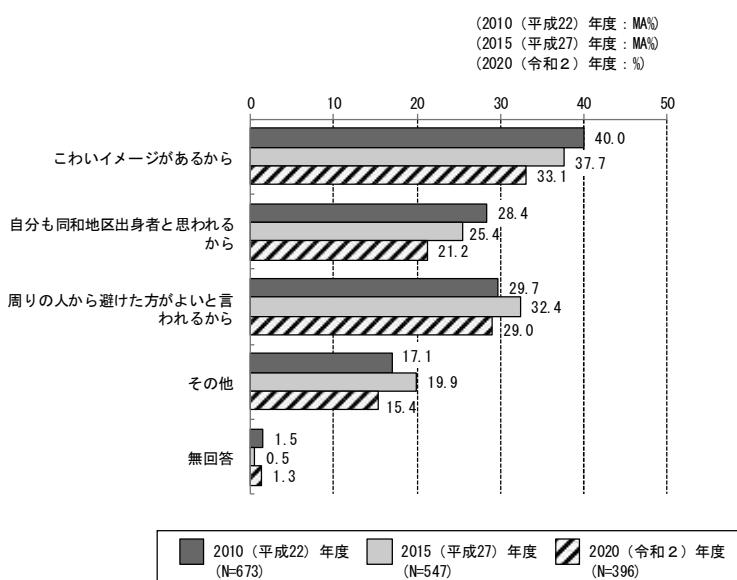
あなたはなぜそのように思うのですか。



「こわいイメージがあるから」(33.1%) が最も高く、次いで「周りの人から避けた方がよいと言われるから」(29.0%) となっている。

経年比較

同和地区を避ける理由

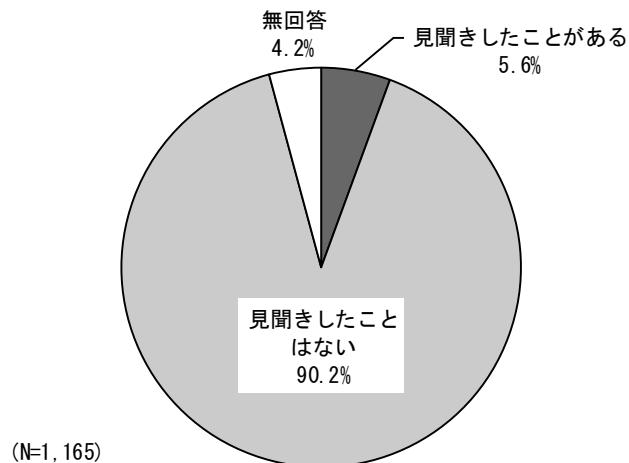


いずれの調査も「こわいイメージがあるから」が最も高く、次いで「周りの人から避けた方がよいと言われるから」、「自分も同和地区出身者と思われるから」の順で割合が高くなっている。

※本設問は、前回調査及び前々回調査では複数回答方式であったが、今回調査より単一回答方式となっているため、数値の比較は行っていない。

(8) 過去5年以内に同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験

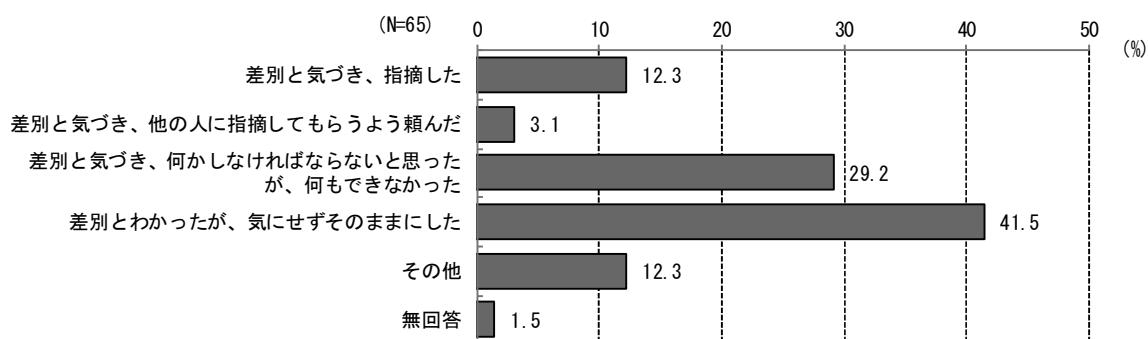
問19 あなたは、過去5年ほどどの間に、同和地区の人々に対する差別的な言動や落書きを見聞きしたことがありますか。



「見聞きしたことない」が90.2%と圧倒的に高く、「見聞きしたことがある」は5.6%に留まっている。

(9) 同和地区の人々への差別を見聞きした時の反応

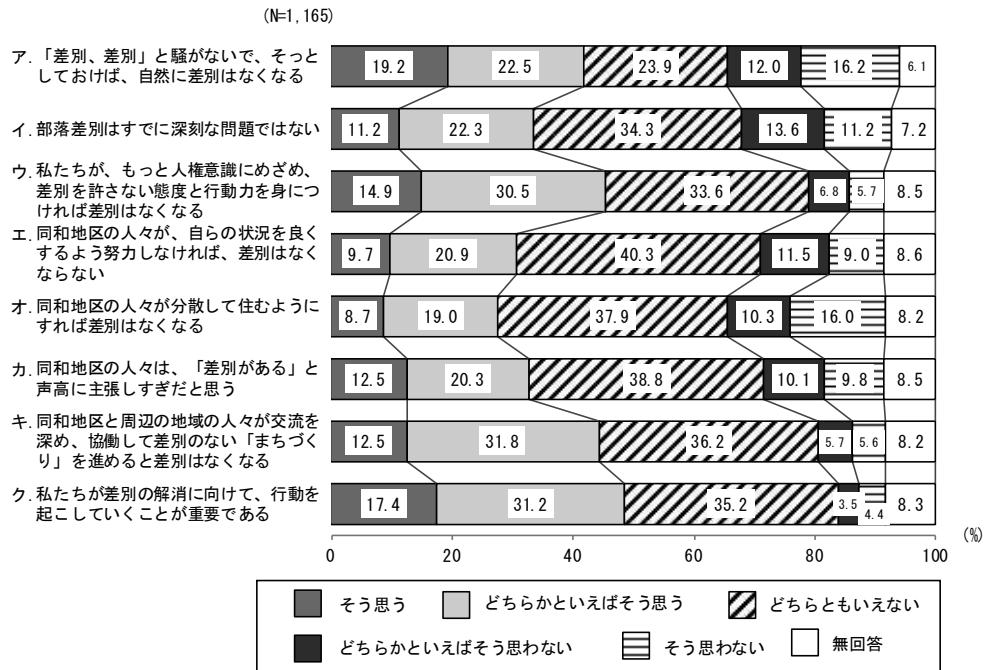
問20 問19で、「1. 見聞きしたことがある」と答えた方にお聞きします。
その時あなたは、どうしましたか。



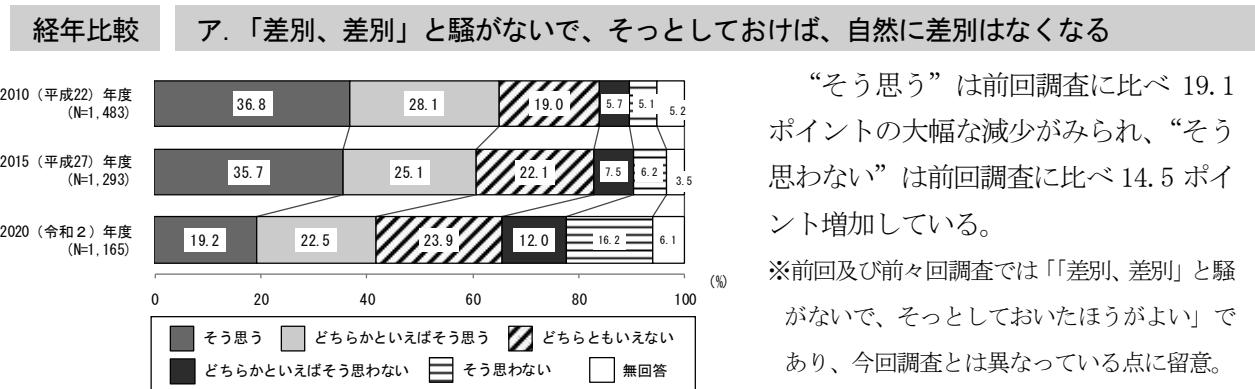
「差別と分かつたが、気にせずそのままにした」(41.5%)が最も高く、次いで「差別と気づき、何かしなければならないと思ったが、何もできなかつた」(29.2%)となっている。

(10) 部落差別をなくす方法に関する意見

問21 部落差別をなくすことについて、次のような考え方があります。あなたはどう思いますか。

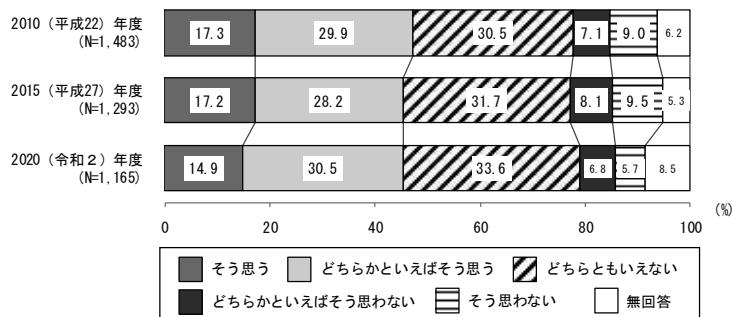


いずれの項目も“そう思う”が“そう思わない”を上回っており、“そう思う”は「ク.私たちが差別の解消に向けて、行動を起こしていくことが重要である」(48.6%)で最も高く、次いで「ウ.私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」(45.4%)となっている。



経年比較

ウ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる

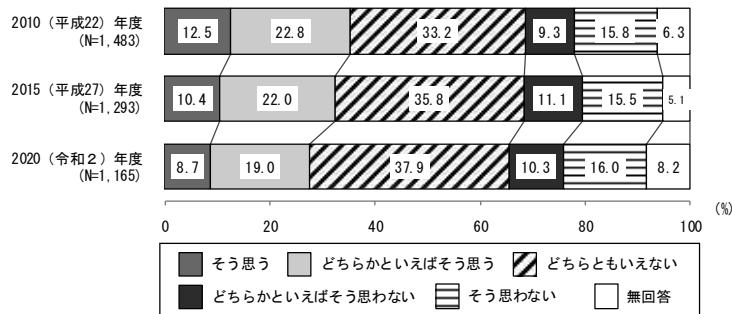


「そう思う」は前回調査に比べ 2.3 ポイント減少しているものの、“そう思う”は前回調査と同値となっている。

“そう思わない”は前回調査に比べ 5.1 ポイント減少している。

経年比較

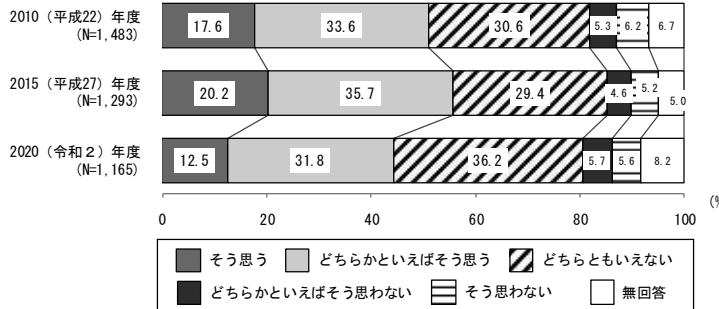
オ. 同和地区の人々が分散して住むようにすれば差別はなくなる



“そう思う”は減少傾向にあり、前回調査に比べ 4.7 ポイント減少している。“そう思わない”は前回調査とほぼ同様となっている。

経年比較

キ. 同和地区と周辺の地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進めると差別はなくなる

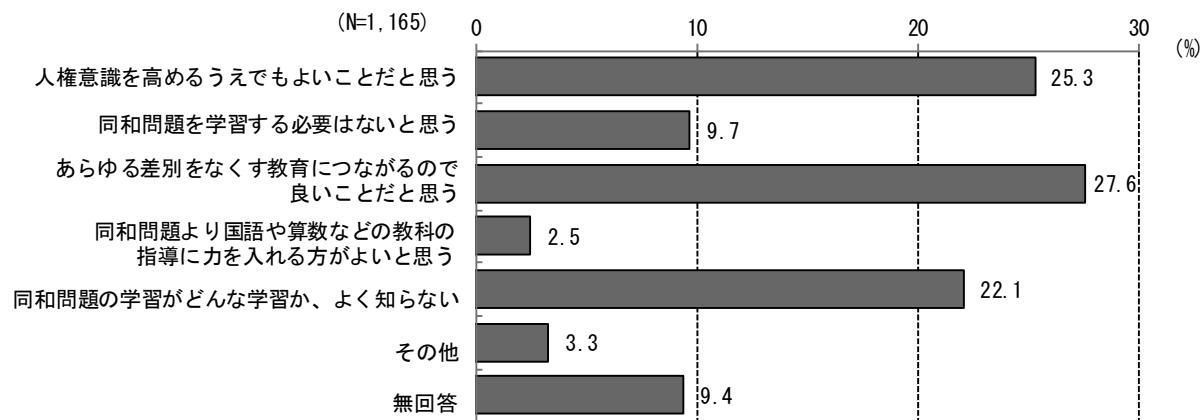


“そう思う”は前回調査に比べ 11.6 ポイント減少しており、中でも「そう思う」は前回調査から 7.7 ポイントの減少がみられる。“そう思わない”は前回調査に比べ 1.5 ポイントの微増であり、前々回調査とほぼ同様の値となっている。

※前回及び前々回調査では「同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進める」であり、今回調査とは異なっている点に留意。

(11) 学校での同和教育について

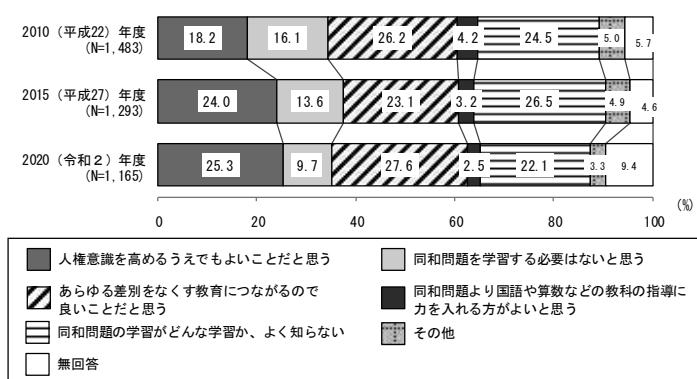
問22 堺市では、学校で人権教育の一環として同和問題の学習が行われていますが、あなたはどう思いますか。



「あらゆる差別をなくす教育につながるので良いことだと思う」(27.6%) が最も高く、次いで「人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」(25.3%) となっている。

同和教育に否定的な項目（「同和問題を学習する必要はないと思う」と「同和問題より国語や算数などの教科の指導に力を入れる方がよいと思う」）は合わせて 12.2%と低い。

経年比較 学校での同和教育について

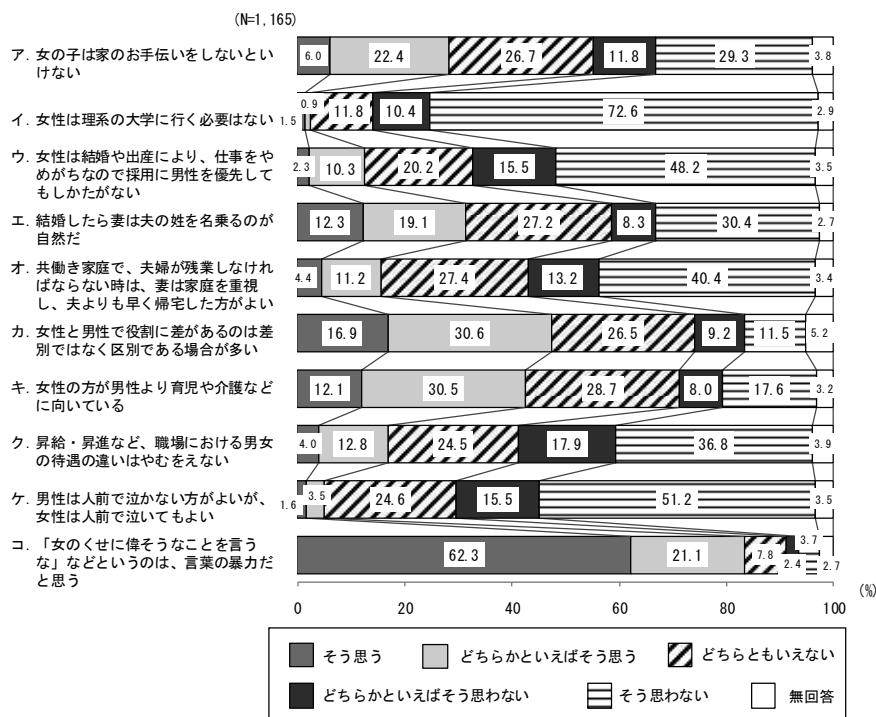


「人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」は増加傾向にあり、「同和問題を学習する必要はないと思う」は減少傾向にある。「あらゆる差別をなくす教育につながるので良いことだと思う」は前回調査との比較では 1.4 ポイントの微増だが、前回調査との比較では 4.5 ポイントの増加となっている。

4. 女性の人権について

(1) 女性に対する人権問題についての考え方

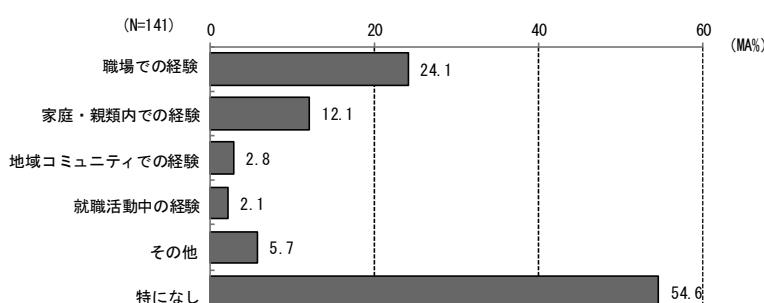
問23 次のような考え方について、あなたはどう思いますか。



“そう思う”は「コ. 「女のくせに偉そうなことを言うな」などというのは、言葉の暴力だと思う」(83.4%)で最も高く、次いで「カ. 女性と男性で役割に差があるのは差別ではなく区別である場合が多い」(47.5%)となっている。“そう思わない”は「イ. 女性は理系の大学に行く必要はない」(83.0%)で最も高く、次いで「ケ. 男性は人前で泣かない方がよいが、女性は人前で泣いてもよい」(66.7%)となっている。

(2) 性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験

問24 あなたは、過去5年ほどどの間に、性別によって役割を決められたり待遇に差をつけられたりした経験がありますか。もしそのような経験があれば、どのような内容であったか、覚えている範囲で記入してください。

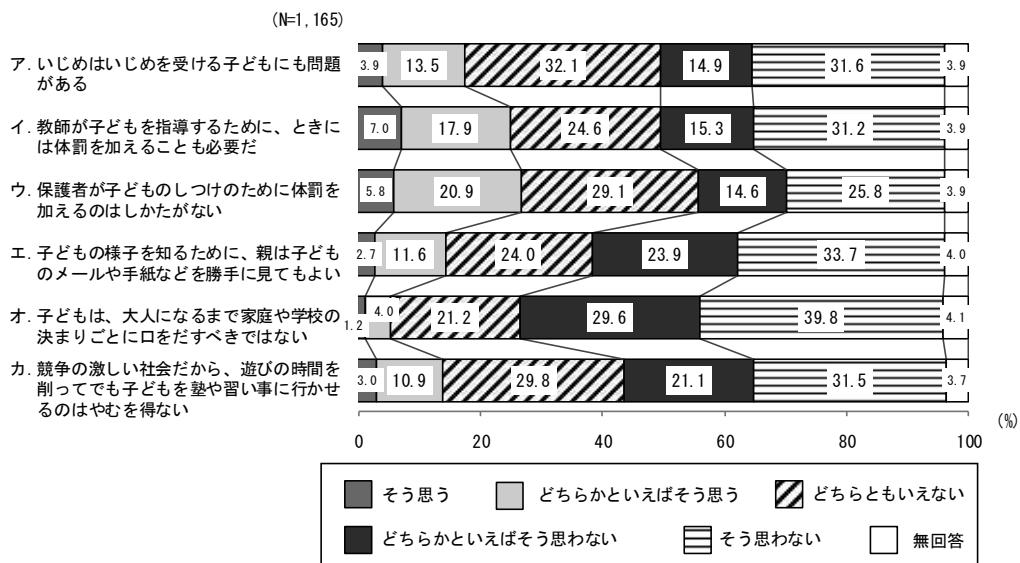


回答のあった自由意見を分類したところ、「特になし」が54.6%と過半数を占めている。次いで「職場での経験」が24.1%、「家庭・親類内の経験」が12.1%と続く。

5. 子どもの人権について

(1) 子どもに対する人権問題についての考え方

問25 次のような考え方について、あなたはどう思いますか。



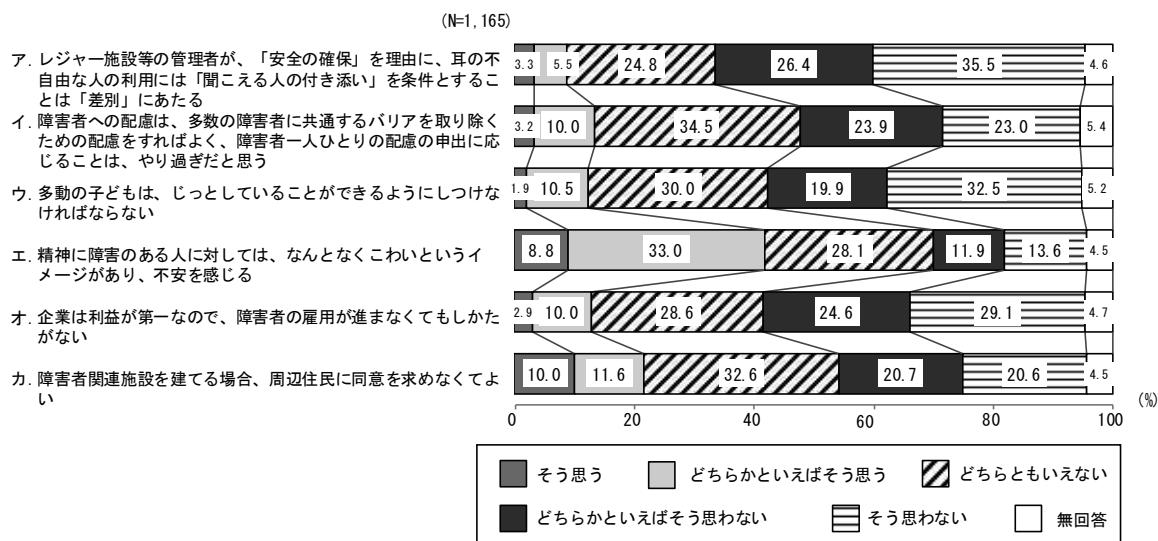
いずれの項目も“そう思わない”が“そう思う”に比べ高い。“そう思わない”は「オ. 子どもは、大人になるまで家庭や学校の決まりごとに口をだすべきではない」(69.4%)で最も高く、次いで「エ. 子どもの様子を知るために、親は子どものメールや手紙などを勝手に見てもよい」(57.6%)となっている。

“そう思う”はいずれの項目も3割未満となっており、「ウ. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのはしかたがない」(26.7%)で最も高い。

6. 障害者の人権について

(1) 障害者に対する人権問題についての考え方

問26 次のような考え方について、あなたはどう思いますか。



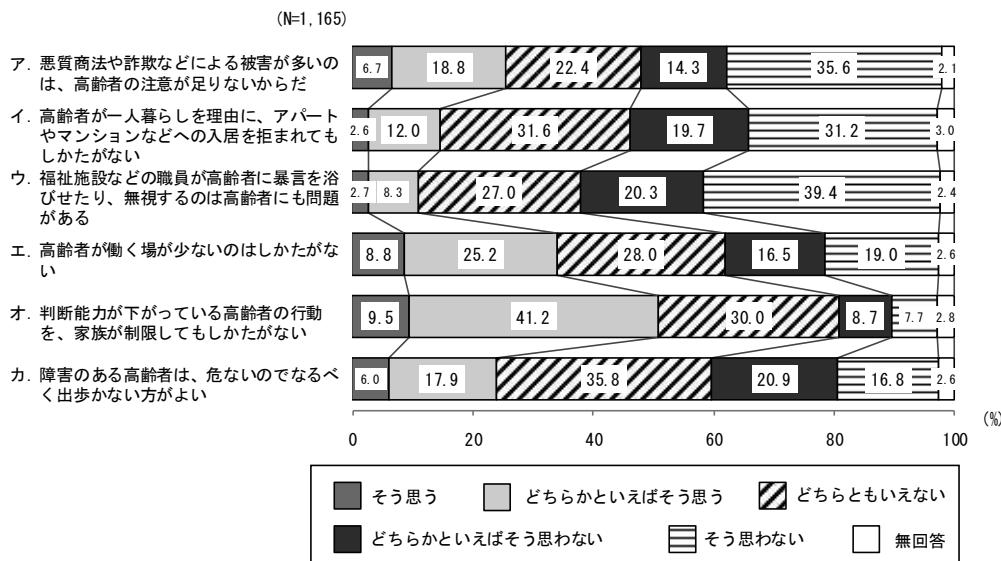
“そう思う”が“そう思わない”を上回る項目は、「エ. 精神に障害のある人に対しては、なんとなくこわいというイメージがあり、不安を感じる」(41.8%)のみである。

“そう思わない”は「ア. レジャー施設等の管理者が、「安全の確保」を理由に、耳の不自由な人の利用には「聞こえる人の付き添い」を条件とすることは「差別」にある」(61.9%)で最も高く、次いで「オ. 企業は利益が第一なので、障害者の雇用が進まなくてもしかたがない」(53.7%)となっている。

7. 高齢者の人権について

(1) 高齢者に対する人権問題についての考え方

問27 次のような考え方について、あなたはどう思いますか。

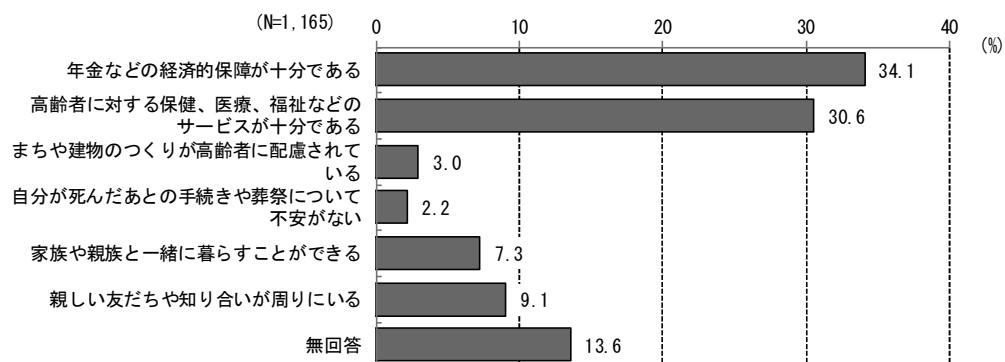


“そう思う”が“そう思わない”を上回る項目は、「オ.判断能力が下がっている高齢者の行動を、家族が制限してもしかたがない」(50.7%)のみである。

“そう思わない”は「ウ.福祉施設などの職員が高齢者に暴言を浴びせたり、無視するのは高齢者にも問題がある」(59.7%)で最も高く、次いで「イ.高齢者が一人暮らしを理由に、アパートやマンションなどへの入居を拒まれてもしかたがない」(50.9%)となっている。

(2) 高齢者が安心して暮らせる社会についての考え方

問28 あなたが高齢になったときに、安心して暮らせる社会とはどのような社会だと思いますか。
高齢者の方は、今の状況をお答えください。

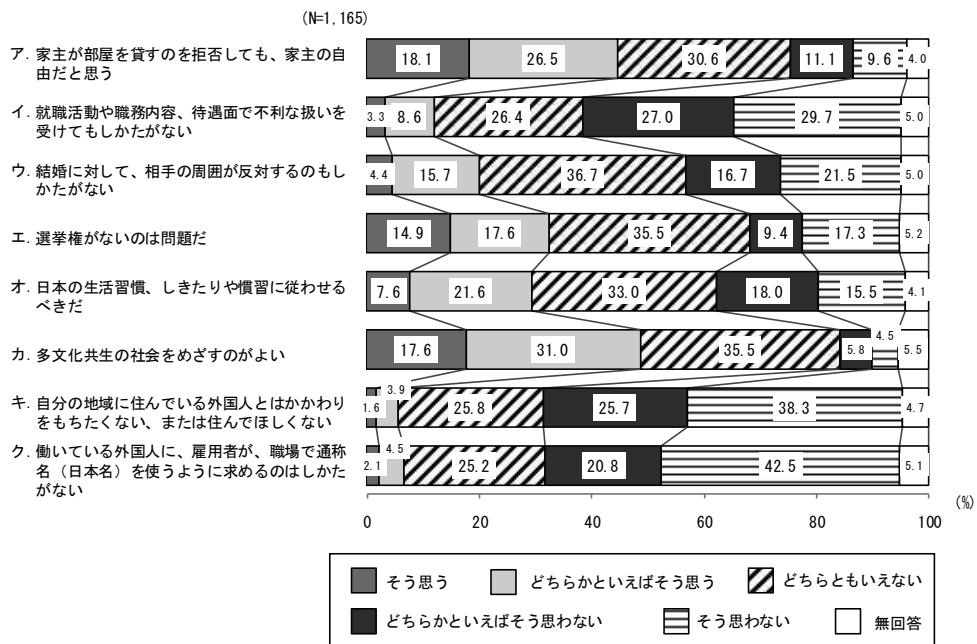


「年金などの経済的保障が十分である」(34.1%)が最も高く、次いで、「高齢者に対する保健、医療、福祉などのサービスが十分である」(30.6%)となっている。

8. 日本に住む外国籍住民の人権について

(1) 外国籍住民への差別についての考え方

問29 次のような考え方について、あなたはどう思いますか。

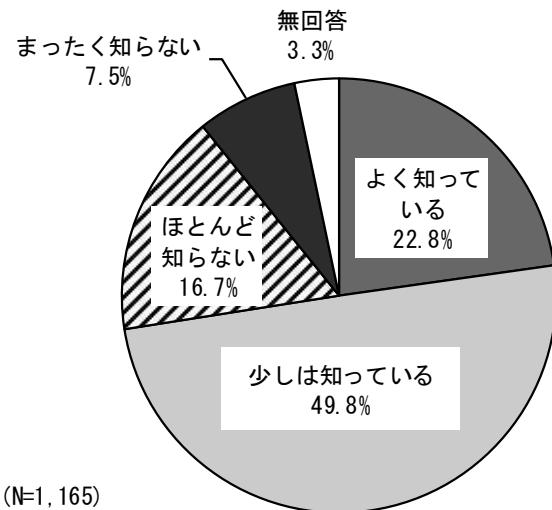


“そう思う”は「カ. 多文化共生の社会をめざすのがよい」(48.6%)で最も高く、次いで「ア. 家主が部屋を貸すのを拒否しても、家主の自由だと思う」(44.6%)となっている。

“そう思わない”は「キ. 自分の地域に住んでいる外国人とはかかわりをもちたくない、または住んでほしくない」(64.0%)で最も高く、次いで「ク. 働いている外国人に、雇用者が、職場で通称名（日本名）を使うように求めるのはしかたがない」(63.3%)となっている。

(2) 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況

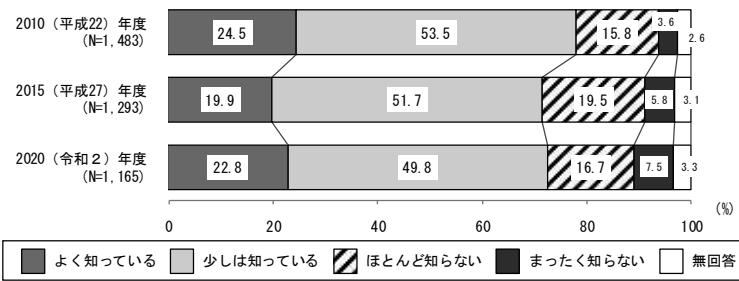
問 30 あなたは、戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことを知っていますか。



「少しあは知っている」(49.8%) が最も高く、次いで「よく知っている」(22.8%) となっており、「知っている」が約7割を占めている。

経年比較

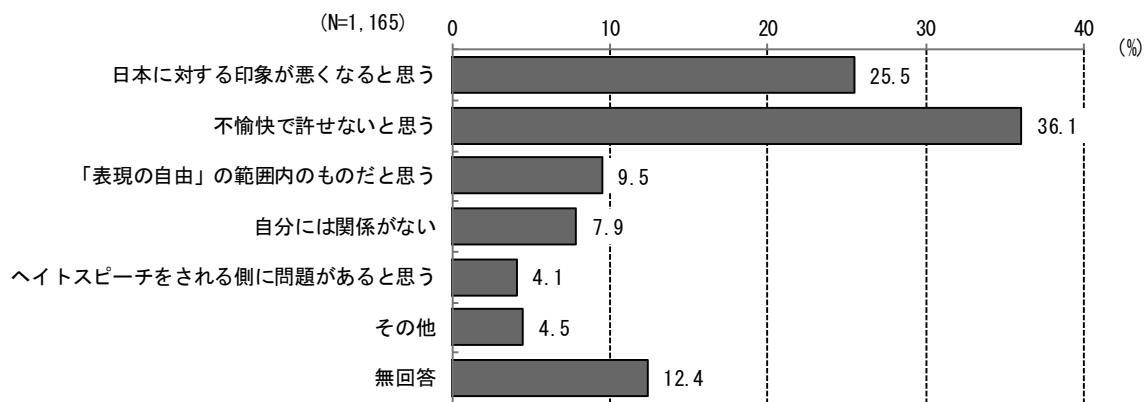
戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況



「よく知っている」は前回調査に比べ 2.9 ポイント増加しており、「知っている」は前回調査から 1.0 ポイント微増しているが、前々回調査との比較では 5.4 ポイント減少している。「まったく知らない」は微増傾向にある。

(3) 差別的言動（ヘイツスピーチ）についての考え方

問31 特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動（ヘイツスピーチ）について、あなたはどう思いますか。

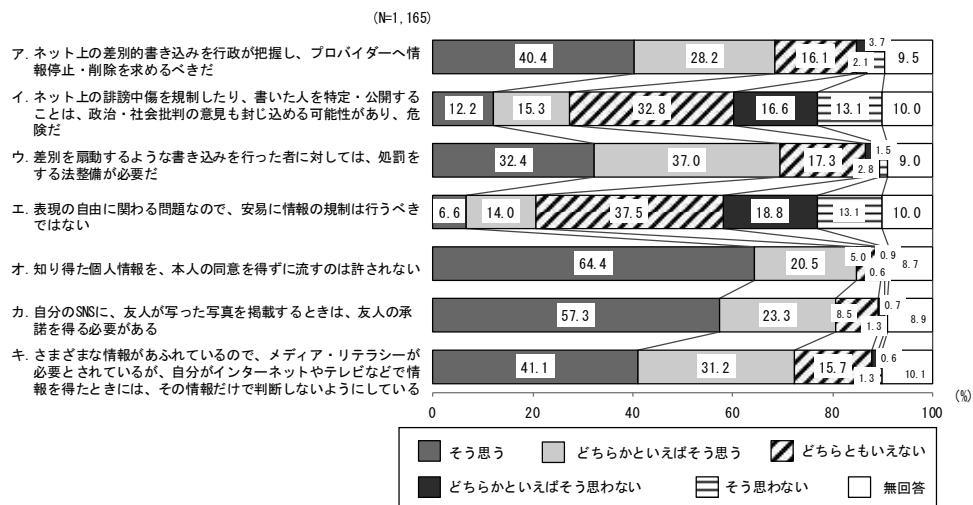


「不愉快で許せないと思う」(36.1%) が最も高く、次いで「日本に対する印象が悪くなると思う」(25.5%) となっている。

9. さまざまな人権について

(1) インターネットについての考え方

問32 インターネットに関する次の考え方について、あなたはどう思いますか。

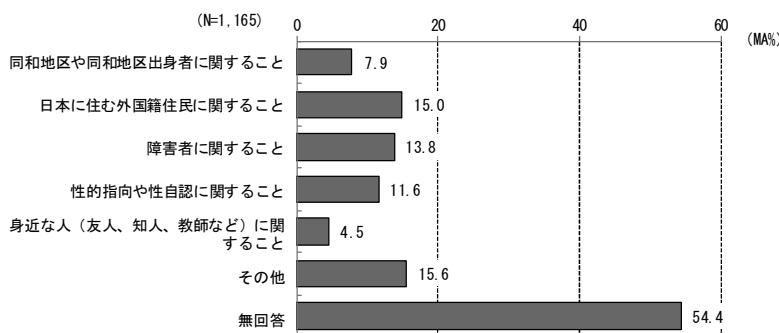


“そう思う”は「オ. 知り得た個人情報を、本人の同意を得ずに流すのは許されない」(84.9%)で最も高く、次いで「カ. 自分のSNSに、友人が写った写真を掲載するときは、友人の承諾を得る必要がある」(80.6%)となっている。

“そう思わない”は「エ. 表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない」(31.9%)で最も高く、次いで「イ. ネット上の誹謗中傷を規制したり、書いた人を特定・公開することは、政治・社会批判の意見も封じ込める可能性があり、危険だ」(29.7%)となっている。

(2) インターネット上の誹謗中傷などを助長・誘発する書き込みを目にした経験

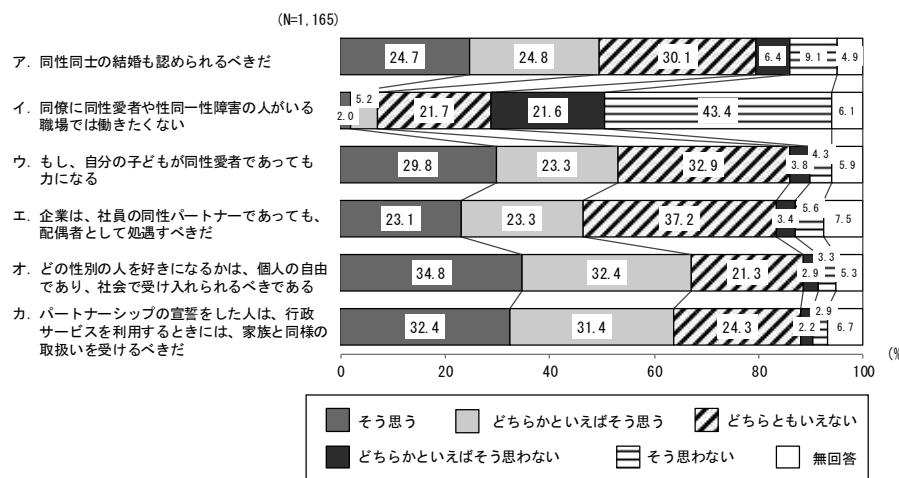
問33 あなたは次のことで、インターネット上で誹謗中傷や差別を助長・誘発する書き込みを見たことがありますか。(複数回答)



「日本に住む外国籍住民に関すること」(15.0%)が最も高く、次いで「障害者に関すること」(13.8%)となっている。なお、「普段インターネットを使用しない」、「(そのような書き込みを) 目にしたことが無い」といった回答選択肢外の意見も多くあり、「無回答」(54.4%)、「その他」(15.6%)が高くなっている。

(3) 性的指向や性自認についての考え方

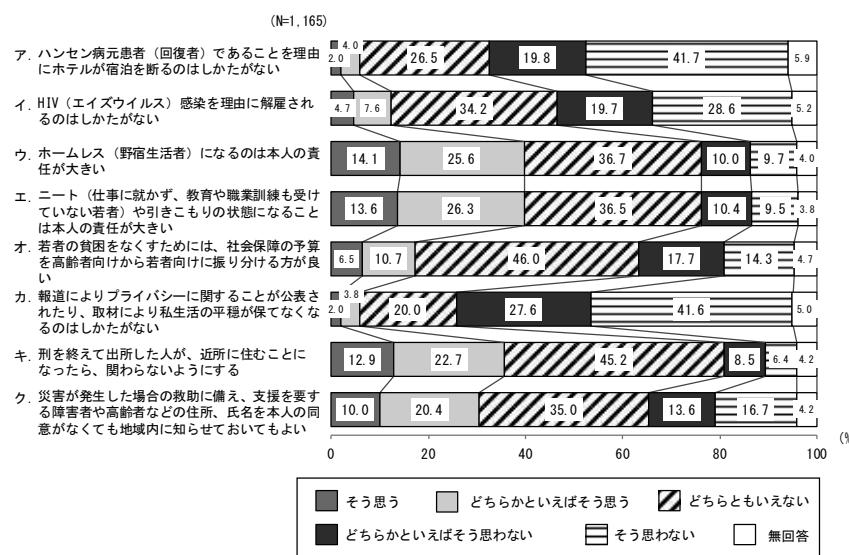
問34 性的指向や性自認に関する次の考え方について、あなたはどう思いますか。



“そう思う”が“そう思わない”を上回る項目で最も高いのは、「オ. どの性別の人を好きになるかは、個人の自由であり、社会で受け入れられるべきである」(67.2%) であり、次いで「カ. パートナーシップの宣誓をした人は、行政サービスを利用するときには、家族と同様の取扱いを受けるべきだ」(63.8%) となっている。“そう思わない”が“そう思う”を上回る項目は、「イ. 同僚に同性愛者や性同一性障害の人がいる職場では働きたくない」(65.0%) のみとなっている。

(4) さまざまな人権問題についての考え方

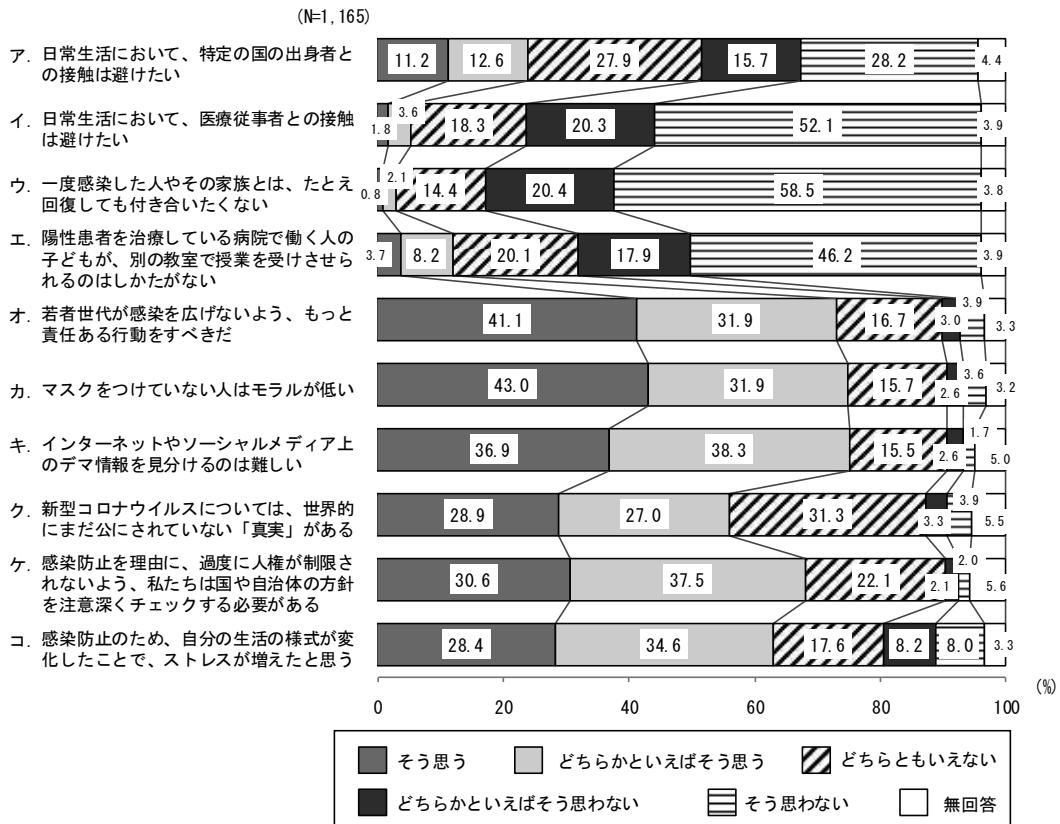
問35 次のような考え方について、あなたはどう思いますか。



“そう思う”は「エ. ニート（仕事を就かず、教育や職業訓練も受けていない若者）や引きこもりの状態になることは本人の責任が大きい」(39.9%) で最も高く、次いで「ウ. ホームレス（野宿生活者）になるのは本人の責任が大きい」(39.7%) となっている。“そう思わない”は「カ. 報道によりプライバシーに関することが公表されたり、取材により私生活の平穀が保てなくなるのはしかたがない」(69.2%) で最も高く、次いで「ア. ハンセン病元患者（回復者）であることを理由にホテルが宿泊を断るのはしかたがない」(61.5%) となっている。

(5) 新型コロナウイルスについての考え方

問36 新型コロナウイルスに関して以下のような意見がありますが、あなたはどう思いますか。

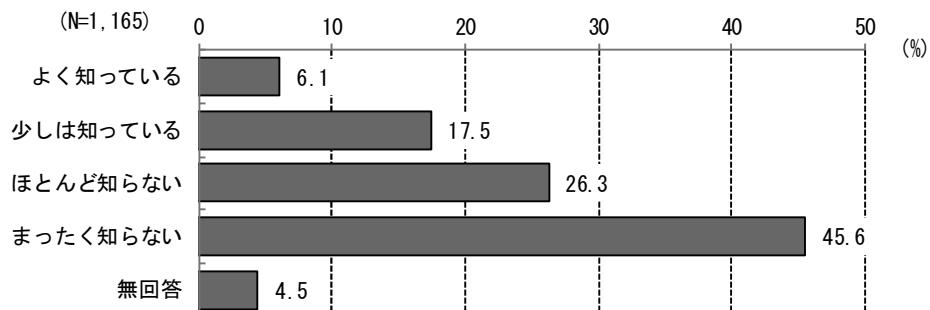


“そう思う”は「キ. インターネットやソーシャルメディア上のデマ情報を見分けるのは難しい」(75.2%) が最も高く、次いで「カ. マスクをつけていない人はモラルが低い」(74.9%) となっている。

“そう思わない”は「ウ. 一度感染した人やその家族とは、たとえ回復しても付き合いたくない」(78.9%) が最も高く、次いで「イ. 日常生活において、医療従事者との接触は避けたい」(72.4%) となっている。

(6) SDGs（持続可能な開発目標）の認知状況

問37 あなたはSDGs（持続可能な開発目標）のことを知っていますか。

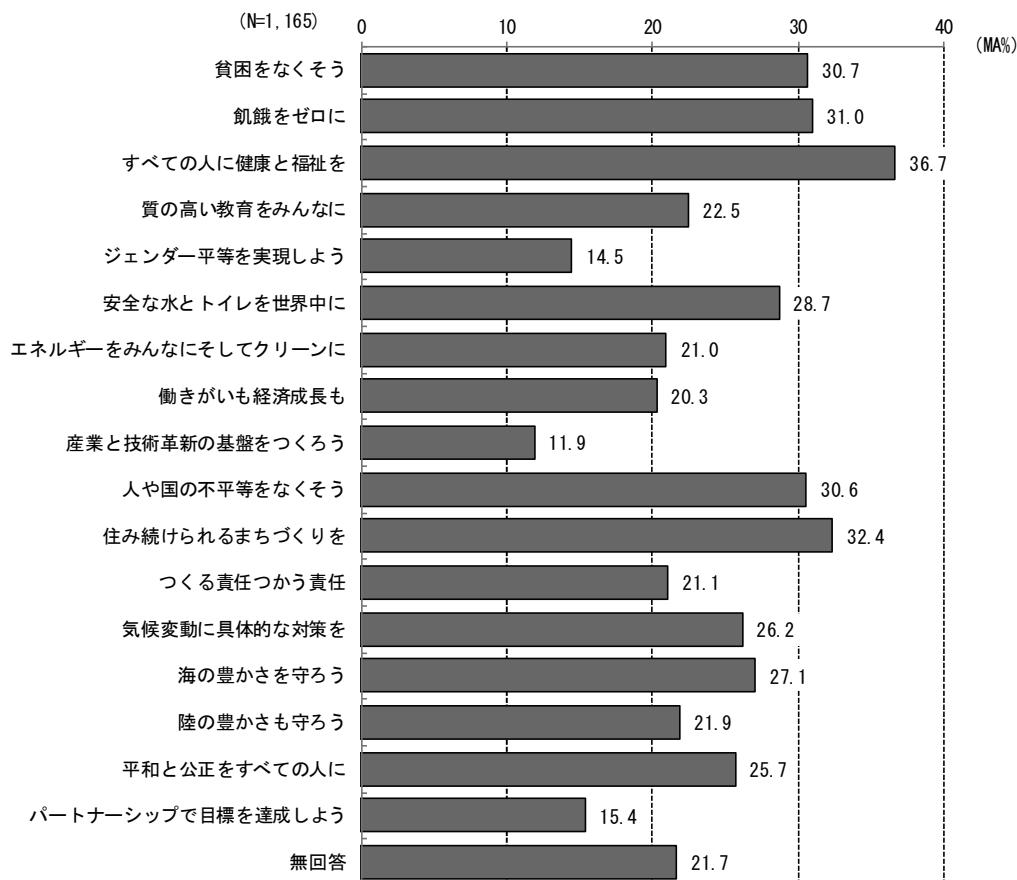


「まったく知らない」が45.6%と最も高く、“知らない”(71.9%)が“知っている”(23.6%)を大幅に上回っている。

(7) SDGs の目標に繋がっていると思う普段の行動

問38 SDGs では、下記の 17 のゴールを目標としています。

あなたが普段の行動の中で、SDGs の目標につながっていると思われるものはどれですか。
(複数回答)

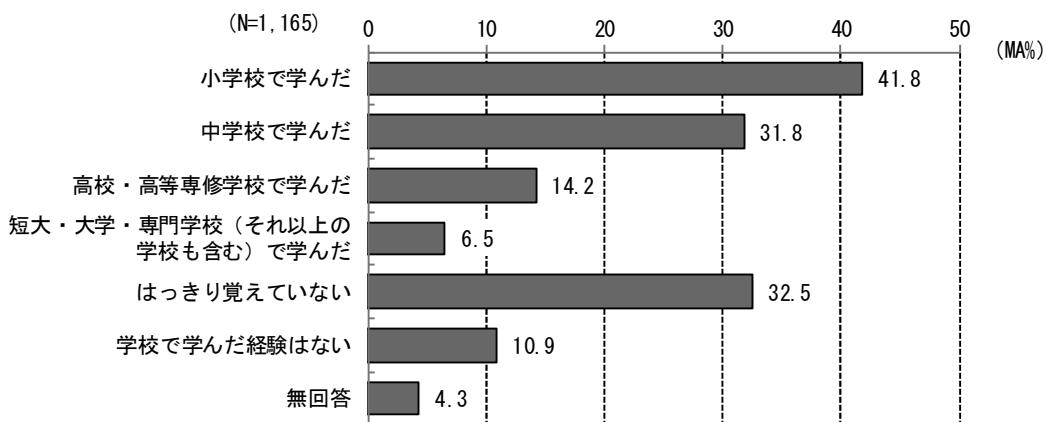


「すべての人に健康と福祉を」(36.7%) が最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」(32.4%)、「飢餓をゼロに」(31.0%) となっている。

10. 人権問題の啓発活動について

(1) 人権についての学習の経験

問39 あなたは学校で人権について学んだ経験はありますか。(複数回答)

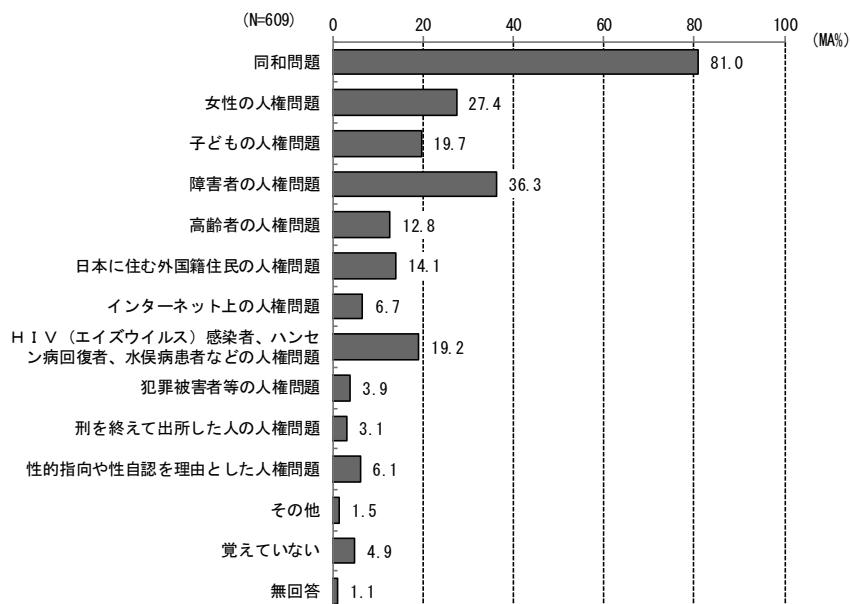


「小学校で学んだ」(41.8%) が最も高く、次いで「はっきり覚えていない」(32.5%) となっている。

(2) 学校で学んだ人権問題の分野

問40 問39で「1～4」と答えた方にお聞きします。

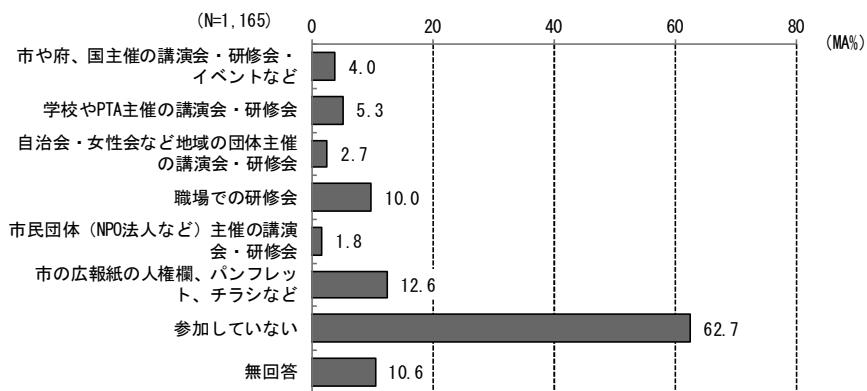
それはどのような分野でしたか。(複数回答)



「同和問題」(81.0%) が最も高く、次いで「障害者の人権問題」(36.3%)、「女性の人権問題」(27.4%) となっている。

(3) 人権に関する講演会や研修会での学習経験

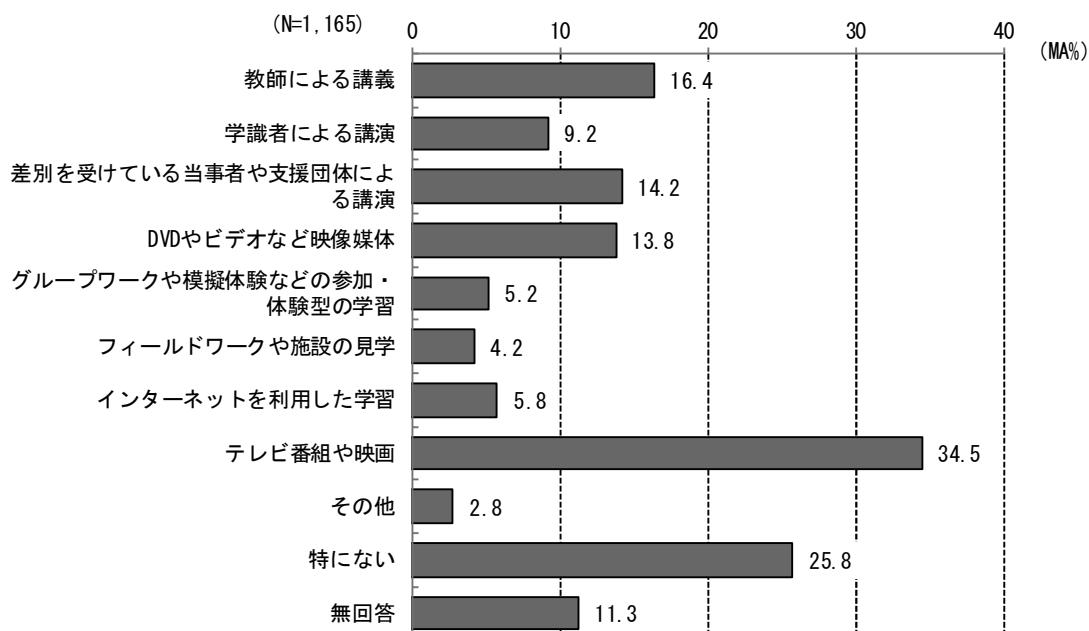
問41 あなたは過去5年ほどどの間に、人権についての講演会や研修会などで学んだことはありますか。(複数回答)



「参加していない」が62.7%と他の項目に比べ大幅に高くなっている。次いで「市の広報紙の人権欄、パンフレット、チラシなど」(12.6%)、「職場での研修会」(10.0%)と続く。

(4) 人権への理解を深めるために役立った機会や手段

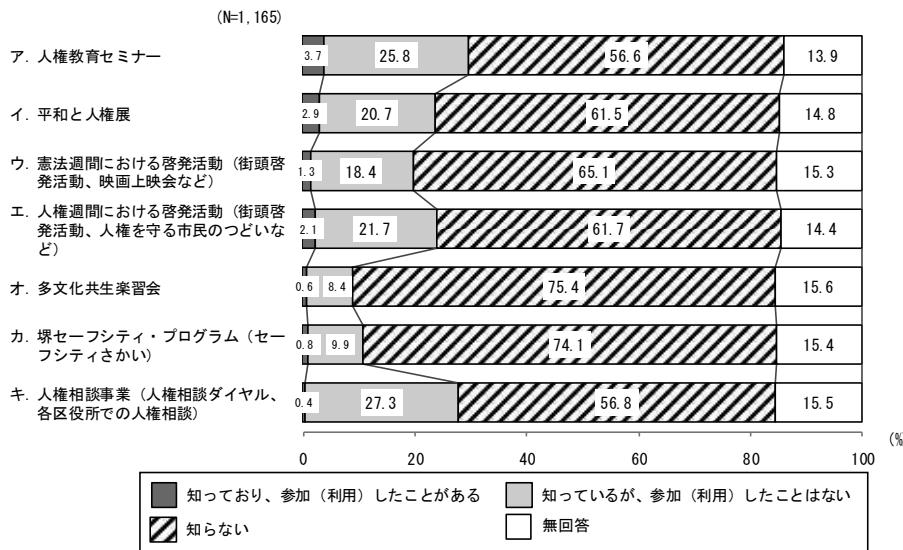
問42 あなたが人権について、理解を深めるために役立ったと思うものはどれですか。(複数回答)



「テレビ番組や映画」が34.5%と最も高く、次いで「特ない」が25.8%、「教師による講義」が16.4%、「差別を受けている当事者や支援団体による講演」が14.2%となっている。

(5) 堺市の人権に関する事業についての認知状況

問43 あなたは、堺市が実施する人権に関する事業や人権に関する施設を知っていますか。
また、過去5年ほどの間に参加（利用）したことがありますか。



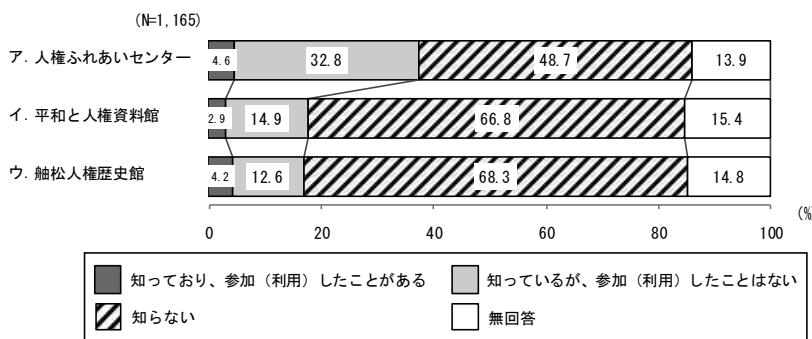
いずれの項目も「知らない」が最も高い。「知っており、参加したことがある」は、「ア. 人権教育セミナー」(3.7%)で最も高く、次いで「イ. 平和と人権展」(2.9%)となっている。

「知っているが、利用したことはない」は、「キ. 人権相談事業（人権相談ダイヤル、各区役所での人権相談）」(27.3%)で最も高く、次いで「ア. 人権教育セミナー」(25.8%)となっている。

「知らない」は、「オ. 多文化共生楽習会」(75.4%)で最も高く、次いで「カ. 堺セーフシティ・プログラム（セーフシティさかい）」(74.1%)となっている。

(6) 堺市の人権に関する施設についての認知状況

問43 あなたは、堺市が実施する人権に関する事業や人権に関する施設を知っていますか。
また、過去5年ほどの間に参加（利用）したことがありますか。



いずれの項目も「知らない」が最も高い。「知っており、利用したことがある」は、「ア. 人権ふれあいセンター」(4.6%)で最も高く、次いで「ウ. 船松人権歴史館」(4.2%)となっている。

「知っているが、利用したことはない」は、「ア. 人権ふれあいセンター」(32.8%)が大幅に高く、次いで「イ. 平和と人権資料館」(14.9%)となっている。

「知らない」は「ア. 人権ふれあいセンター」(48.7%)が大幅に低く、「イ. 平和と人権資料館」(66.8%)、「ウ. 船松人権歴史館」(68.3%)は同程度となっている。

第8回 堺市人権意識調査結果報告書
概要版

2021（令和3）年3月発行

堺市 市民人権局 人権部 人権企画調整課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

TEL 072-228-7159

FAX 072-228-8070

堺市行政資料番号 1-D1-21-0071

私たちのまちから
人権文化の火を咲かせよう